

中国外文局亚太传播中心  
日本科学协会  
上海交通大学

主编



# 相知的种子

第一辑【笹川杯品书知日本征文大赛】  
2019 - 2020 日文版 获奖作品

## 「笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール」

「笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール」(中国語版、日本語版)は、中国の青少年たちが日本に関する本やアニメ、漫画、映画、ドラマなどに触れ、その感想を日本語或いは中国語で書くことによる日本文化に関する理解の深化と作文力の向上を図り、両国青年の相互理解と友好交流が促進されることを目指します。

## 寄语

中日两国作为世界领先的经济大国，肩负着携手合作为世界的和平与幸福做出贡献的重要责任。中日关系的稳定不仅仅对于两国，对于世界的和平与发展也有着极大的意义。

由中国外文局亚太传播中心（人民中国杂志社）、日本科学协会、上海交通大学共同主办的“笹川杯品书知日本征文大赛”，旨在鼓励中国青年通过阅读各类与日本相关的书籍，以中文和日文撰写作文、读后感等体裁的文章，达到相互感知、相互交流、相互理解、相互尊重的目的。十余年来，主办各方都本着促进交流、增进友好的初心，矢志不渝地举办大赛，为中国青年了解日本创造条件，为中日青年对话交流提供平台。

这本作文集选自 2019—2020 年“笹川杯品书知日本征文大赛”的一等奖和二等奖获奖作文，17 篇日文作文并附有中文译文。

从这本《相知的种子》作文集中，我们不仅仅可以感受到中国年轻人对日本抱有的单纯的好奇之心，还欣喜地看到中国青年对邻国日本有着浓厚的兴趣，以及对促进中日友好有着真切的意愿。衷心期待中日两国的青年朋友们携起手来，共同创造中日关系的美好未来。

在此，谨向对大赛给予支持的日本财团、日本科学协会、上海交通大学以及全国各日语专业院校和中日各界人士表示衷心的感谢。

编者语

2023 年 2 月

# 目次

## ★「笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール」 (日本語版)

走れ! 信頼の彼方へ! 奔跑吧! 朝着信赖的彼方!

(2019 一等奖) 厦门大学 黄凯琪 …001

ネットカフェ難民 网吧难民

(2019 一等奖) 华东师范大学 倪菁菁…007

## 知られざる改革開放における中日協力の歴史

鲜为人知的改革开放中日合作史

(2019 二等奖) 中国人民大学 蒋超儀…013

日本古典の力 本古典的力量

(2019 二等奖) 北京第二外国语学院 白文娜…019

素晴らしい退歩 积极地退步

(2020 一等奖) 南京邮电大学 乔迪婧…025

## 祭りで繋がる——「祭りのない夏に」を見て

从节日活动产生的羁绊——观“没有节日活动的夏天”有感

(2020 一等奖) 上海外国语大学 郭倩钰…030

## 和辻哲郎「古寺巡礼」----- 仏像を通じた東西の異文化交流

和辻哲郎《古寺巡礼》——以佛像为媒介的东西方文化交流

(2020 一等奖) 辽宁师范大学 余懂欣…034

今度やろうは馬鹿野郎 总是说下次再做的人是傻子

(2020 二等奖) 南通大学 刘华……038

欠かせない自分の考え 不应存在的网络暴力

(2020 二等奖) 大连外国语大学 李聡 ……042

宮部みゆき—「火車」を読んで 阅读宫部美雪的“火车”

(2020 二等奖) 延边大学外国语学院 蔡蕙仙…046

新時代の「薨」と中日友好 新时代的“薨”与中日友好

(2020 二等奖) 中央财经大学外国语学院 王丽媛 …050

孤独ではないグルメ 不孤独的美食家

(2020 二等奖) 北京师范大学 尚楚岳 …054

空気を読みながら、自分らしく生きていく

在阅读空气中保持自我

(2020 二等奖) 北京外国语大学 倪笑依…058

無縁社会 无缘社会

(2020 二等奖) 大连外国语大学 詹鑫 ……062

「笹川杯日本を知る日本との出会い—おいしい話から心へ

遇见日本——从味蕾跳动到荡漾心间

(2020 二等奖) 河北大学 闫芊婧 …066

さようなら、偏見 后会无期, 偏见——观《好久不见, 武汉》有感

(2020 二等奖) 西安交通大学 张佳颖 …070

自分の価値というのは 活着的价值

(2020 二等奖) 北京语言大学 李林億 …075

# 笹川杯品书知日本征文大赛

日文版获奖作品

「笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール」

日本語版入賞作品

## 走れ！信頼の彼方へ！



黄凱琪  
廈門大学

笹川杯作文コンクール 2019 年度一等賞

「走れメロス」、初めてこれを読んだのは、高校三年生の時だった。

主人公のメロスは、やがて結婚する妹のために、遠い町に買い物に出た。町は異様な静けさで、みんな、死にそうな顔をしていた。すべてがこの国の王の仕業だと知り、怒ったメロスは王宮に向かい、王を殺そうとした。しかし、たった一人のメロスが軍隊に勝てるはずもなく、殺されることになってしまった。メロスの最後の望みは、妹の結婚式に出席することであった。三日を期限として、結婚式が終わったら、すぐに王宮に戻るとメロスは国王と約束した。そして、その三日間、メロスの友達の石工が、メロスの身代わりとして王宮に留まり、もし、メロスが約束通りに帰ってこなかったら、石工は殺されることになっていた。

妹の結婚式を終え、メロスは急いで王宮へ戻ろうとした。しかし寝坊をしたり、橋が折れていたり、山賊にあったり、とうとうメロスは体力が尽き、倒れてしまった。

「もう、無理だ。わたしは国王の言う通り、約束を守らない男だ。諦めよう。」

今にも意識を失いそうなメロスに、ふと、友達の待っている姿が浮かんできた。

「・・・ダメだ!まだ、私を信じてくれる友達がいる!ここで諦めるのはダメだ!走れメロス!走れ!走れ!」

危うく諦めてしまうところであったメロスだったが、なんとか石工の処刑前に王宮に戻ることができた。誰も信じることの出来なかった国王は、石工とメロスが、最後まで互いを信じあっていたことに感動し、心を入れ替えて、優しい国王になろうと決心した。

さて、この話で、わたしにとって、最も印象深かったところが、二つある。

一つは、最後まで必死に諦めず頑張ったメロスだ。彼はずっと戦っていた。天気との戦い、他人との戦い、そして自分との戦い。メロスが疲れて、もう走れなくなった箇所を読んだ時、私はまるで自分の姿を見たかのように、悔しくて悔しくて仕方がなかった。心の中で「頑張れ!メロス!負けるな!」と叫び、メロスに再び走って欲しい、と願った。高校三年生の私は、自分を超えたい、力を出し尽くしたい、というメロスの気持ちが分かったから、メロスが自分に勝った時、私は、涙が出てきた。そして長いあいだ、メロスは、私を支え続けてくれている。

もう一つは、メロスと石工の間の切れない絆だ。「人を信じる」と、口で言うのは簡単だが、実際に信じることは難しい。特に今の私たちがいるこの社会では、お金のため、名声のため、利益のため、他人を騙したりすることが、知らず知らずのうちに、すでに生きるための手段の一つになってしまっている。だから初めてこの話を読み終えた後、私は感動してしかたがなかった。かりに石工が、メロスの戻って来ることを信じられなかったなら、メロスは妹の結婚式に出席できず、悔しさを抱えたまま死んでいただろう。一方、もしメロスが自分に勝てなかったら、石工も国王に「甘さ」を笑われて、結局、殺されていただろう。しかし、二人の相手への信頼が、国王、そしてこの国を救うことになった。

この話に力を与えられた私は、日本への関心が高まり、大学に入って日本語を専攻することになった。そして一年間、日本語を学び、この話への理解も、より一層深まった。

そう、人を信じること。ただ周りの人との人間関係だけでなく、交流の輪を広げ、中国と日本との信頼関係を固めることも、私たち日本語学科の学生の役割だ。

中国と日本の交流は、何千年も遡ることができる。中国が強くて豊かな国だったころ、日本は中国に憧れ、中国のいろいろなことを取り入れた。シルク、薬草、技術、儒学、文字、唐の町を真似して自分の国の町を建てることさえあった。だから、中国と日本が、特に文化面で似ていることは納得できる。しかし、時間が流れるにつれて、中国と日本との関係は次第に、悪くなってしまった。特に1895年から1972年までの長い間、中日関係は悪化する一方だった。

現在、新しい通信手段が生まれ、私たちはインターネットを通じて国境を越え、他国の人々との交流が、ますます便利になっている。そのおかげで日本のアニメやテレビドラマが中国に伝わり、日本人の中国に対する認識も深くなった。これはある程度、中日関係を良い方向に発展させた。

でも、これだけでは足りない。私たちは、時代の交差点に生まれて来た世代である。中国は急速に発展を遂げ、日本も「令和」の時代を迎えた。これからの両国は、互いにとって重要な仲間になると、私は思っている。けれど、進む道には必ず障害が出てくるだろう。相手への疑い、歴史への恨み……メロスのように、困難にあっても諦めず、その疑いや恨みを、できるだけ消して、現在の平和を守り、相手への信頼を固めることこそ、私たちの役割ではないだろうか。

そしてまたいつか、中日関係は必ず真の意味で、信頼の彼方に着けると、私は、信じている。



【译文】

## 奔跑吧！朝着信赖的彼方！

黄凯琪  
厦门大学

第一次读《奔跑吧梅洛斯》的时候，我正值高三。

为了快要结婚的妹妹，主角梅洛斯来到了一个很远的城市进行采购。城市异常安静，每个人都是一幅快死的表情。知道这一切都是这个国家的国王干的好事后，愤怒的梅洛斯立刻冲去王宫想要杀掉国王。但是单枪匹马的梅洛斯不但没法与军队抗衡，反而会被杀掉。梅洛斯最后的愿望只有出席妹妹的婚礼。于是梅洛斯和国王做了个约定，给梅洛斯的三天的时间，妹妹的婚礼结束后，梅洛斯会立刻回到王宫。而这三天内，梅洛斯的一个石匠朋友会作为人质留在王宫。如果梅洛斯没有按照约定回来，石匠就会被杀掉。

为妹妹举行婚礼后，梅洛斯立刻出发动身前往王宫。但是途中又是他睡过头，又是桥断了，再加上遇到山贼，梅洛斯终于耗尽体力倒在地上。

“已经不行了。我就像国王所说，是个没法遵守约定的男人，放弃吧。”突然，快要失去意识的梅洛斯的脑海里浮现出了等待着自己的朋友的身影。

“……不可以！我还有相信我的朋友！我不能在这种地方放弃！快跑梅洛斯！快跑！快跑！”

差点放弃的梅洛斯，总算是在石匠被处刑前回到了王宫。无法相信任何人的国王被石匠和梅洛斯到最后都深深信任着彼此的行为所感化，决定改头换面，成为一个温柔的国王。

在这个故事中，我印象最深刻的有以下两点。

一个是始终都没有放弃，拼命努力的梅洛斯。他一直在战斗着。与天气斗争、与他人斗争、与自己斗争。读到梅洛斯累得不行，已经跑不动的地方的时候，我就像看见了自己一样，懊悔得不得了。心里喊着“加油啊梅洛斯！不要输！”，希望梅洛斯再跑起来。正值高三的我能够理解梅洛斯想要超越自己，想要竭尽全力的那种心情，所以当梅洛斯胜利的时候，我被感动落泪了。在之后的很长一段时间，梅洛斯一直都在支撑着我。

还有一个是梅洛斯和石匠之间无法切断的羁绊。“相信别人”，嘴上说着简单，实际上相信别人是件很难的事。特别是现在我们所处的这个社会，为了钱、为了名声、为了利益，不知不觉中，欺骗他人已经成为我们生存下去的手段之一了。所以，第一次读完这个故事的时候，我感动得不得了。假如石匠不相信梅洛斯最后会回来，梅洛斯就没法参加妹妹的婚礼，就这样抱憾而终。另一方面，如果梅洛斯没能战胜自己，石匠也会被国王嘲笑天真，最后会被杀掉。但是，两人对对方的信任，拯救了国王，并拯救了这个国家。

从这个故事中获得动力的我，加深了对日本的兴趣，于是来到大学，选择了日语系。学了一年日语之后，我对这个故事有了更深的理解。

对！就是要相信别人。不局限于周围的人，扩大自己的交际圈，加固中日的信赖关系，也是我们日语学子的使命。

中日的交流可以追溯到几千年前。中国正值富强的时候，日本憧憬着中国，从中国引进了很多东西。丝绸、草药、技术、儒学、文字，日本甚至模仿唐朝的城市建造了自己的城市。所以，可以理解中日之间，尤其是在文化上有着诸多相似之处。但是，随着时间的流逝，中日关系也在不断地恶化。特别是 1895 年到 1972 年这么长的一段历史时间里，中日关系越来越差。

现在，随着新的通讯方式的诞生，我们通过网络，与外国人

的跨国交流也变得越来越方便。因此，日本的动漫和电视剧等等也传到了中国，日本人对中国的认识也在不断加深。这在某种程度上，使中日关系往好的方向发展。

但是这样是远远不够的。我们是在时代的交叉点诞生的一代。中国在急速发展，日本也迎来了“令和”时代。我认为以后两国会成为彼此重要的战略伙伴。但是，在前进的道路上一定会有绊脚石。对对方的怀疑、对历史的怨恨……我们的任务不正是像梅洛斯那样，就算遇到了困难也不放弃，尽可能消除那份怀疑和怨恨，守护现在的和平，加固对对方的信赖吗？

而我相信，有一天，中日关系一定会在真正意义上，到达信赖的彼方。

## ネットカフェ難民



倪菁菁  
華東師範大学  
笹川杯作文コンクール 2019 年度一等賞

言語を学ぶ一番いい方法は何だろうか。大学で専門の日本語をゼロから学び始めた時に一度考えたことがある。それは日本に行って生活することに違いない。自然と話したり聞いたりする機会が多くなるからだ。しかし、私はこれまで一度も日本に行ったことがない。

ある時、大学の聴解授業で先生が「72 時間」という日本のドキュメンタリーを見せてくださった。それをきっかけに、私は日本のドキュメンタリーにはまった。部屋で気楽に日本語を勉強する方法である。内容もドラマや小説と違って虚構ではない。ドキュメンタリーには生き生きとした生の日本が映っている。私の価値観も変わるかもしれない。72 時間のシリーズだけではなく、日本風土記などいろいろなものをネットで探しては見ていた。

ある日いつも通りドキュメンタリーを探していた時、再生回数が多い「ネットカフェ難民」と題するものを見つけた。「ネットカフェ」は知っているが「ネットカフェ難民」って何だろう。私は興味を感じ見始めた。

画面にネットカフェの看板が映る。「格安! 長期利用コース」という一行を見て、「ネットカフェを長期利用する人がいるのか」と思った。カメラが中に入ると個室のドアがたくさん並んでる。ドアの横にはスリッパが

ある。私は「長期利用者」という表示を思い出し、中はどうなっているのか想像しながら見続けた。個室の中が映った時、私は驚いた。中は思ったよりずっと狭くて暗い。あるのはパソコンが乗っている机と椅子だけだ。画面に若い男性の長期利用者が映る。「一番最初の夜には、やはり体が休まらなかったですね。」と答えている。

それを見て、ネットカフェへの印象が一変した。私にとってネットカフェのイメージはゲームしたり映画を見たりする場所だった。一泊ならまだ我慢できるが、一畳程の息苦しい環境に一人で何日も泊まるのはどうしても想像しがたいのだ。

男性は建築現場の非正規雇用者の警備員で給料が少ない。部屋を借りるお金がないからここに泊まると答えている。もう一人の中年の男性は前の仕事が家に帰る時間もないくらい残業が多かった。上司からのパワハラにも耐えられず、仕事をやめて四か月もここに泊まっているという。

私はなんだか気持ちが重苦しくならずにはいられなかった。生活がうまいかない彼らへの同情の気持ちがないわけではないが、非正規雇用だから給料が少ないとか、残業でストレスがたまるとか、愚痴ばかりを言って全てを社会のせいにする彼らを見て、なんだかやるせなかった。彼らにとって、今一番大事なのはこの息苦しい場所を早く離れて、よりよいところに住むことなのではないか。でも残念なことに、このドキュメンタリーでは現状を改善しようという意欲が伝わってこなかったのだ。

私は、この問題に興味を持ち、日本人の教師にネットカフェに関するドキュメンタリー「クローズアップ現代ネットカフェ難民」という番組を紹介していただいた。そして、彼らがネットカフェ難民になった理由を知った。

ある若い男性の話だ。就職氷河期の中、正社員の仕事が見つからずに否応なく派遣社員になったという。しかし、仕事は途切れがちで、月収は多い時でも15万円ほどだ。アパートを借りる資金が貯まるまで、ネ

ットカフェに泊まることにした。しかしいくら一生懸命に頑張っても仕事は途切れがちでお金は貯まらない。4年経っても彼は依然として部屋を借りられずにネットカフェで過ごしているという。

ネットカフェ難民には現状を改善しようという気持ちがないというわけではなかった。生きていくためにギリギリなお金と不安定な毎日で、新しいアパートを借りるのも難しく、家族や友達にも頼れないとしたら、無気力になってしまう人がいても不思議ではない。その瞬間、彼らの気持ちが分かるような気がして、さっきまでのネットカフェ難民のネガティブな生活態度に対する歯がゆい気持ちが消えていった。

その代わりに、画面に映った自分の歳と同じぐらいの男性が辛い生活と必死に戦っているのを見て、世間知らずの自分は本当に情けないと思った。これまで私は誰しも20代は人生の中で一番輝かしい、未来への期待にあふれた時期だと、そう思い込んでいた。大学にいる私はいつも自分が見ている世界が社会のすべでだと錯覚していたのだ。

しかし、ドキュメンタリーを通して今まで知らなかった社会の側面を知り、これまでの考えが変わった。それは「幸い」なことだったと思う。私は当たり前だと思った今の生活をもっと大切にしたいくなった。

---

「Net Cafe Refugees」

世界報道写真財団主催報道コンテスト日本のマルチメディア部門3位入賞  
「ネットカフェ難民」NHK クローズアップ現代

【译文】

## 网吧难民

倪菁菁

华东师范大学

学习语言最好的方式是什么呢？刚上大学从零起点开始学日语时，我曾想过这个问题。我的答案是一定要去日本生活。因为这样自然而然就会增加听说的机会。但是我却从未去过日本。

有一次在大学的听力课上，老师给我们播放了一部名叫“72小时”的纪录片。从此我便爱上了日本的纪录片。因为这是一个可以在房间里轻松学习的好方法。纪录片的内容也和电视剧、小说不一样，片中是真真实实的日本。看纪录片也可能改变我的价值观。于是我通过网络不仅找来了“72小时”整个系列的纪录片，还看起了“日本风土记”。

有一天我和往常一样上网搜纪录片时，发现一部播放量极高的名为“网吧难民”的片子。“网吧”这个单词我是知道的，那么“网吧难民”又是什么呢？我很好奇便开始看了起来。

首先引入眼帘的是网吧门前的招牌。看到“超级优惠！长期惠顾套餐”这句时我不禁想“真会有人买这个套餐吗”。随着摄像机进入网吧，我看见许多并排着的单间，门外放着一双双拖鞋。这个画面让我想起了刚刚招牌上的“常客”二字，我一边想象着房间里面的样子一边往下看。当单间的画面放映出来时，我不禁暗自惊讶。里面比想象中的要小且暗的多。配备的仅仅是一张放了一台电脑的桌子和一把椅子。此时画面上出现了一名男性常客。他对前来采访的记者说道：“第一天刚来时，不适应，真没能好好休息。”

这个画面颠覆了我对网吧的固有印象。在这之前我对网吧的印象一直是“一个玩游戏看电影的地方”。如果仅仅在这里留宿一晚倒还能够忍受，但我怎么也无法想象独自一人连续几天待在这只有一个榻榻米大小（1.62平方米）的空间内。

他继续说道，自己是建筑工地上的保安，由于不是正式编制，工资很低。因为没钱租房就住在这里了。在采访到另一名中年男性时，那位男子称之前的工作加班多，多到没有时间回家。由于受不了上司的职权骚扰，便辞了工作在这里已经呆了四个月了。

不知怎么的这些片段让我的心情变得十分沉重。对于他们不如意的生活，我并不是没有同情，而是当我听到他们只是一味地抱怨“没有编制所以工资低”、“因为加班压力激增”，把这些不如意全都归结为社会的过错时，心中升起了一股莫名的悲哀。对他们而言，目前最重要的是难道不是尽早脱离这个令人窒息的地方，住到一个环境好一点的地方吗？遗憾的是在这部纪录片中我没能感受到他们想要改变现状的紧迫感。

我对这个问题产生了兴趣，在与日本外教老师的交谈中她推荐给我一档名叫“关注现代网吧难民”的节目。在这个节目中我了解到了他们成为网吧难民的原因。

以下是一位年轻男性接受采访时的内容。“在就业形势严峻的冰河期，他没找到有正式编制的工作，不得以成为了一名临时工。由于工作断断续续，工资最高的时候也仅有15万日元。于是他打算先暂居在网吧，直到存够可以租房的钱。但是无论他怎样努力他的工作也还是断断续续的，根本没法存够钱。4年过去了他依旧付不起房租仍蜗居在网吧里。”

其实网吧难民并非不想积极主动地改变现状。拿着微薄的工资在不安中勉强度日，仅凭时有时无的工资很难租到房子，如果又无法得到家人和朋友的帮助，那么也就不难理解他们颓废的样子了。这一瞬间，我似乎能够体谅到他们的心情了，而这之前因他们消极的生活态度而感到怒其不争的心情也顿时消散。



取而代之的却是对于不谙世事的自己的惭愧。在这之前我一直以为每个人的 20—30 岁都是其人生中最耀眼、对未来充满期待的一个年龄段。殊不知画面中的与自己年龄相仿的男性正和生活进行着艰苦的抗争。在大学的温室里的我一直错误地以为我看到的世界就是整个社会。

通过这部纪录片我了解到了至今从未了解过的另一个社会侧面，让我看问题的角度有了全新的改变。我想这是件幸运的事。因为从今以后我将会更加珍惜今天这看似理所当然的无忧无虑的生活。

## 知られざる改革開放における中日協力の歴史



蒋超儀

中国人民大学

笹川杯作文コンクール 2019 年度一等賞

昨年、中国は改革開放 40 周年を迎えた。改革開放政策のおかげで、中国がこの 40 年間、大きな発展を遂げたことは、多くの人が認めている。しかし、政策実施の舞台裏に、官民間わず数多くの日本人が改革開放を支えたことは、知る人が多くはない。私もつい最近、「中国“改革開放”を支えた日本人」という NHK のドキュメンタリーを見て初めて知ったのである。

今年 2 月に放送されたこのドキュメンタリーは、あまり知られていない、初期の改革開放事業に力を入れた日本人にスポットを当てている。その中には、日本政財界のトップもいれば、建設現場の日本人技術者もいた。例えば、新日本製鉄の稲山嘉寛会長と経団連の土光敏夫会長は、1978 年の鄧小平訪日等の中日交流をバックアップした。所得倍増計画作成の中心人物であった大来佐武郎氏は中国政府の顧問となり、今まで計画経済しか知らなかった中国の高級幹部向けに世界経済の「啓蒙」をした。建設機械メーカー小松製作所（現コマツ）の技術者 7 人は北京内燃機総廠（北京内燃機工場）に派遣され、現場で国有企業の改革を支援した。

私はこのドキュメンタリーを見て、このような中日協力の歴史の存在

に深い感銘をうけた。一番印象に残ったのは、1981年に起きたプラント輸入契約中止という事件だ。改革開放の最重要プロジェクトといわれる上海宝山製鉄所は1978年12月に着工し、その建設に新日本製鉄を始めとする千社を超える日本企業が参加した。ところが、資金不足等の原因で、中国側は一方的に契約中止を決めたのである。しかし、通告を受けた日本側は腹を立てて中国のことを放っておくことにしたのではなく、協力するから真正面から問題に対応しようと中国側に働きかけた。プロジェクト再開のため、大来佐武郎さんや土光敏夫さんは自ら北京を訪れた。実は私は、当時同行した酒井拓夫さんと同じ疑問を持った。「中国側が説明に行くべきなのではないか」。だが、土光さんは、「中国が困っては、こちらが行かなければならない」と思っていたのだ。

なぜ数多くの日本人がこれほど熱心に中国の改革開放を支えたのか。その答えもドキュメンタリーの中にあっただ。まずは、土光さんのような戦争を経験した日本人として恩返ししたい、或いは償いたいという気持ちとは切り離せないと思う。それに、中国の安定と発展はアジアないし世界の安定と発展に繋がると考える日本人も少なくなかっただろう。一方、中国側が改革開放を断行する決心も要因の一つなのではないか。中国政府は日本人との協力に対する一般中国人の心理的な抵抗感に打ち勝って、記者会見で発展の遅れを自認したり、極秘の経済資料を日本関係者に見せたりした。改革開放への協力を求める中国人の誠意はちゃんと届いただろう。

正直に言えば、ドキュメンタリーを見て私は驚いた。中日関係にこのようなハネムーン期があったとは知らなかったのだ。私にとって、中日関係というと、むしろ敏感、紆余曲折といったキーワードがまっすぐに思い浮かぶ。

改革開放を通して中国はGDP世界第二位の国に成長し、経済上日本と肩を並べるようになってきている。しかし、それにひきかえ、両国民間の距離は離れつつあるように見える。実際2018年に中国外文局と日本の言論NPOが共同実施した第14回中日共同世論調査の結果では、相

手国に「良くない印象を持っている / どちらかといえば良くない印象を持っている」と答えた人は中国にも日本にも半分を上回ったことが分かった。戦争が遠い昔の話となり、中国より欧米の文化に親しむ日本の若い世代には、土光さん世代の中国への恩返しや償いの思いは既に分かりにくいものであろう。また、高度成長の中育ってきた私たち中国の若者にとっても、中日関係の友好ムードより両国関係の不安定を反映する情報のほうが目につきやすい。このままでは、両国の若い世代間の距離もますます開く。しかし、中日関係の未来の担い手は、まさにこの私たちである。いろいろ考えながら、40年前に中国の発展と一緒に取り組み、そして今も交流を続ける両国の技術者たちの姿が現れた最後のシーンを、私は複雑な思いで見つめた。

「相手国に対する良くない印象の理由」の一つとして、「歴史問題」はよく挙げられる。歴史は忘れてはいけないものだ。戦争の歴史はもちろん、友好協力の歴史を知るのも大事であろう。40年前の改革開放事業における中日協力の歴史はこれからの両国関係発展に貴重な経験を提供している。

ドキュメンタリーの一言は今でも私の心に響いている。

「国と国との困難に直面しながらも、人々は互いを理解しようという努力を続けてきました。」

理解する意欲。歩み寄る努力。それこそが中日関係の未来を切り開く重要なカギだと信じる。

---

「中国“改革開放”を支えた日本人」(NHK BS スペシャル、放送日:2019年2月10日)というドキュメンタリーを見て書いた感想文である。

【译文】

## 鲜为人知的改革开放中日合作史

蒋超仪

中国人民大学

去年，中国迎来了改革开放 40 周年。众所周知，得益于改革开放政策，中国在这 40 年间取得了巨大的发展。但鲜为人知的是，在政策实施的背后，其实有许多日本的官方或民间人士为推进改革开放事业提供了重要的支持。最近，我观看了日本 NHK 电视台制作的一部名为《支援中国改革开放的日本人》的纪录片，从而初次了解到了这段历史。

于今年 2 月播出的纪录片《支援中国改革开放的日本人》，聚焦于改革开放初期为这项事业做出了贡献的日本友人。在这其中，既有日本政经界高层人士，也有建设现场的日本技术人员。例如，新日本制铁株式会社的稻山嘉宽董事长和日本经济团体联合会的土光敏夫会长，促成了 1978 年邓小平访日等中日交流活动；大来佐武郎先生是曾制定日本“国民所得倍增计划”的关键人物，他担任中国政府的顾问，给当时还只懂得计划经济的中国高层领导带来了关于西方经济学的新理念；机械制造商小松制作所（即小松集团）派遣 7 名技术人员赴往一线，帮助北京内燃机总厂进行国有企业改革。

看过纪录片，我为中日之间有过这样一段合作史而深受触动。特别是 1981 年发生的宝钢工程停建事件，令我印象最为深刻。1978 年 12 月，中国开始建设上海宝山钢铁总厂。宝钢工程被称为改革开放中最重要的项目，新日本制铁等上千家日本公司参与了该工程的建设。然而，由于资金不足等原因，中国政府单方面终

止了工程合同。但接到通知的日方并没有一气之下将中国的工程置之不理，而是向中国表示愿意继续提供帮助，劝说中方从正面解决问题。为了能够使工程继续，大来佐武郎先生、土光敏夫先生等人也亲自到访北京。当看到这里的时候，我也和当年一同前往北京的酒井拓夫先生一样感到了困惑：“难道不应该由中方前往日本做出说明吗？”但当时土光先生认为：“中国遇到了困难，应该由我们过去。”

为什么当时会有如此多的日本人这样热心地支援中国的改革开放事业呢？这一问题的答案也藏在纪录片之中。首先，我认为这和土光先生等经历过战争的日本人想要对中国报恩或进行补偿的心理有关。再者，不少日本人认为，亚洲乃至世界的稳定与发展离不开中国的稳定与发展。从另一方面看，中方自身想要实行改革开放政策的坚定决心也是重要原因之一。例如，中国政府努力克服民众对于与日本合作的抵触情绪；在记者见面会上主动承认自己发展落后的事实；将一些机密的经济资料交给日本有关人士参阅等等。通过这一系列举动，日方感受到了中方请求帮助改革开放事业的诚意。

实话说，在看完这部纪录片后，我不禁感到惊讶。我以前从不知道中日关系曾有过这样一段“蜜月期”。一提到中日关系，我的脑海里立刻浮现出的关键词总是“敏感”、“曲折”这样的字眼。

通过改革开放，中国已发展成为 GDP 总量世界排名第二的国家，经济上可和日本并肩齐驱。但与此相对的是，两国国民之间却似乎渐行渐远。事实上，由 2018 年中国外文局和日本言论 NPO 共同实施的第 14 次“中日关系舆论调查”的结果显示，无论是在中国还是在日本，表示对对方国家“印象不好（或相对不好）”的受访者均达半数以上。对于现在的日本年轻一代来说，战争已成为遥远的过去，而且比起中国文化，欧美文化更有亲切感。他们因此难以理解土光先生那一代人对中国所持有的报恩、补偿心理。而我们这一代在国家经济快速增长的背景下长大的中国年

轻人，比起中日友好，往往也更容易看到反映中日关系不稳定的信息。如果任由这种趋势发展下去，两国年轻人之间的距离只会变得越来越大。然而，肩负着中日关系未来的却正是我们这些年轻人。思绪万千的我怀着复杂的心情看着 40 年前一起为中国的发展而携手并进、至今仍然保持着友好交流的两国技术人员的身影出现在了纪录片的最后。

在被问及对对方国家“印象不好（或相对不好）”的原因时，受访者常给出的答案之一便是“历史问题”。历史不容忘却。但除了战争的历史，了解友好合作的历史也同样重要。40 年前的改革开放中日合作史，便为今后两国关系的发展提供了宝贵的经验。

纪录片结尾的一句话，至今仍在我心中回响：

“尽管面临着国与国之间交往的困难，人们却从未停止理解彼此的努力。”

相互理解之意愿、彼此走近之努力——我相信这两者才正是开启中日关系“未来之门”的锁钥。

## 日本古典の力



白文娜

北京第二外国語学院

笹川杯作文コンクール 2019 年度二等賞

今年、先生のおかげで、『万葉集』、『竹取物語』、『枕草子』、『奥の細道』など古典文学の名作の原文を読み始めた。私から遠く離れた日本古代の文学世界に入り、想像力に満ちた偉大な時代に出会った。原文を読めば読むほど、古典の不思議な力を感じた。例えば、気に入った『枕草子』に触れ、鮮烈な印象を受けると、その感動は色褪せることなく余韻を残した。

前に、『枕草子』についての認識は清少納言の才能に集中していた。今回、原文をじっくりと味わった時、中宮定子のことに注目し始めた。そこで、私に深い印象を残した『枕草子』の二七八段「雪のいと高う降りたるを」について考えてみたい。この章段は「香炉峰の雪」として知られている。このエピソードが生まれた背景は雪が非常に高く降り積もっていたが、いつもと違って、格子を下ろし、炭びつに火をつけ、皆でおしゃべりをしていた時である。この時、定子が「少納言よ、香炉峰の雪はどんな様子かしら」と尋ねた。清少納言は定子さまの気持ちを察して、白居易の漢詩「遺愛寺鐘敬枕聽、香爐峰雪撥簾看」をしぐさで示したのであって、素晴らしい対応で返した。



これは清少納言が機知に富む女房であることを表現したエピソードとして名高いが、角度を変えて考えれば、この場面を見て、即座に「香炉峰の雪はどんな様子かしら」と聞いた定子さまは漢文学の教養が清少納言に決して劣らないと言える。学者の家に生まれ、幼いころから英才教育を受け、優れた和歌の才能と豊かな漢詩文の知識を持っている清少納言のことが大いに気に入っている定子さまは如何なる人物なのか、興味を持ちながら、『枕草子』を読んだだけでなく、作品の登場人物も調べてみた。例えば、定子の父親の道隆は「猿楽言」を好み、酒を嗜むし、おおらかで明るい風雅人であること、定子の母は円融朝に掌侍を務め、高内侍と称された人で、女ながらに漢文を能くする才媛でもあること、いろいろなことを知ることになった。さらには、その時代の歴史や文化にも興味を感じた。だから、古典を読むことは日本の古代文学を学ぶだけではなく、日本の歴史や文化を知るのにも役に立つだろう。

この作品を読み終わった後で、定子と清少納言の相互信頼の仲に感動させられた。とりわけ二七八段の「雪のいと高う降りたるを」である。なぜかというと、定子が、「香炉峰の雪はどんな様子かしら」と聞く前に、わざわざ「少納言よ」と注意して清少納言を指名して答えさせた。その時、定子は必ず清少納言がこちらの気持ちを察して、自分を満足させるような答えをしてくれることを信じているからこそ、問題を出したのだった。最後に、中宮はその打てば響くというように会心の微笑みを漏らした。問う中宮と答える納言と、両者の呼吸はびたりと一致した感がある。ここから互いに信頼しあう二人の関係に感動せずにはいられない。

ここまで読んでくると、思い出したことがある。ある日、友人と一緒に寮に帰った途中で、「長生不死」ということが話題になった。私は思わず「この世界で長生不死の薬があるもんか」

と言った。友人はすぐさま「きっと富士山の山頂にあるだろう」と答えてくれた。その時、彼女が疑いもなくそう答えてくれることを信じていたかもしれない。『竹取物語』を勉強した時、友人はその冗談を言ったことがあるからである。案の定、彼女は思わず「きっと富士山の山頂にある」と口をついて出た。私たちは顔を見合わせて笑った。その時、ほんとうに「あなたに出会えて本当によかった」と言いたかった。千年前、定子と納言はお互いに会えることが嬉しく思われてならないのではないだろうか。その時、私と友人の暗黙の理解が定子と納言のこの場合と見事に重なっているのではなかろうと。

清少納言は『枕草子』を書いた時、これが日本の古典として後世に残ろうという野心は全くなかったかもしれない。しかし、この作品は人々に与えた感動は時代がどんなに激変しようと、社会体制がどう変わろうとも、幾世代を通じて変わることなく続いてきているのである。あるいは、古典は時間によって、聖化されるのではなく、むしろ時間を超えて改めて読み直し、現代人との対話である。この対話は有効に行われるならば、いろいろの意味で我々の精神を豊かにするのに役立つに違いあるまい。これこそ日本古典文学が私に与えた影響だと思う。また、日本の読者が感動したように、中国の読者も感動するだろう。従って、日本古典は日本のものであると共に世界のものでもある。日本の古典文学は、「雪のいと高う降りたるを」のような千年の歳月が経っても色褪せることのない感動は日本古典の力であると思う。

【译文】

## 日本古典的力量

白文娜

北京第二外国语学院

在老师的引导下，今年起我开始阅读《万叶集》、《竹取物语》、《枕草子》、《奥州小道》等日本古典文学作品的原文。走进了一个距离我们遥远的日本古代文学世界，邂逅了一个充满想象力的伟大时代。在阅读过程中越是仔细品味作品的原文，越是能够感觉到古典文学那妙不可言的魅力。我十分喜欢的《枕草子》留给了我深刻的印象，它给予我的那份感动至今仍然毫不褪色，余味悠长。

在这之前，我对于《枕草子》的理解多是集中于作者清少纳言的才能，这次在细读原文的过程中，开始注意到了中宫定子。所以在这里我想讲述一下我和《枕草子》中留给我深刻印象的第278段《香炉峰的雪》的故事。这一章段因为白居易的“香炉峰雪拨帘看”而广为所知。

那天，大雪下的很深，与平时不同，格子窗放了下来、火炉生起炭火，女官们聚在一起谈闲话。这个时候中宫说：“少纳言，香炉峰的雪是什么模样呀？”清少纳言领会到了定子皇后的心意，便根据白居易的汉诗“遗爱寺钟敬枕听，香炉峰雪拨帘看”的启发，把格子窗打开，并高高地掀起御帘，以此巧妙地回应了定子。这一章段一直以充分体现了清少纳言作为一名女官的机智而闻名。然而，如果换一个角度思考，能够那时那景立刻问出“香炉峰的雪是什么模样呢？”的定子的文学修养一定也不逊色于清少纳言。中宫定子十分中意出生于书香世家、从小便受到精英教育、

具备优秀的和歌才能和深厚的汉诗文修养的清少纳言，如此爱惜人才的中宫定子到底是一位什么样的人呢？抱着对中宫定子的的好奇，我不仅阅读了《枕草子》，还查阅了很多《枕草子》中的出场人物及时代背景。通过查阅，我了解到了定子的父亲藤原道隆喜欢猿乐、爱好喝酒，是一个洒脱爽朗的风雅人士；定子的母亲也曾在宫中做过女官，是一位颇具汉文修养的才女。在不断的翻阅过程中，文学作品不仅让我学到了日本的古典文学知识，还给予我无垠的想象空间去想象那个时代的历史和文化容貌。所以，阅读古典对我来说不仅是文学知识的汲取，还可以帮助我感受日本那个遥远时代的历史和文化魅力。

细读完《枕草子》后，我感动于定子和清少纳言的相互信赖，尤其是在《香炉峰的雪》这一章段中注意到了定子询问“香炉峰的雪是什么模样呢？”的时候，特意在前面加了“少纳言”。我想定子提问前一定相信少纳言定能够知晓自己的心意、做出自己想要的回答，所以才特意指名让少纳言来回答这个问题的。不出所料，定子也为两个人的心有灵犀和相互信任露出了满足的笑容。我也不禁为自信地提出问题的定子和巧妙地做出回答的少纳言两人之间的默契和信任感动不已。

读到这里的时候，我想到了一件发生在我身上的事情。一天、我和朋友一起走在回宿舍的路上，路上我们讨论起了“长生不老”的话题。我无意中说道：“这个世界上怎么会有长生不老药呢？”说完之后我意识到她肯定会回答我“在富士山的山顶上吧。”或者说在我说出那句话的时候我相信她一定会这样回复我，因为我们在学习《竹取物语》的时候曾说过这样的玩笑话。果不其然，她毫不犹豫地說道“在富士山的山顶上。”我们两个没有多说，默契地笑了，那默契的一笑仿佛在说能遇见你真好。千年之前，定子和少纳言定也为彼此的相遇、相知开心不已吧。那个时刻我想我和朋友之间的默契应该和千年之前定子和少纳言的情形是一样的吧。

清少纳言在书写《枕草子》的时候，可能没有抱有这部作品会流芳百世的野心。但是，这部作品带给人的感动却任岁月更迭、时光沉淀也历久不变。或者，与其说古典作品是因为时间而变得神圣，不如说是因为超越了时间、再与现代人的重新对话而充满魅力，如果这个对话能够触动我们，肯定能够丰富我们的精神世界，这也正是日本古典文学作品让我着迷的地方。其次、在文学作品中没有国界之分，《枕草子》可以感动日本的读者同样也可以触动中国的读者，这样看来日本的古典文学是日本的瑰宝也是世界的财富。总之，我认为日本古典文学作品带给人的这种历经千年却毫不褪色的感动便是日本古典的巨大力量。

## 素晴らしい退歩



乔迪婧

南京郵電大学

笹川杯作文コンクール 2019 年度二等賞

近頃読んだ本は原研哉の『デザインのデザイン』である。この本の著者は有名なデザイナー、無印良品の芸術総監原研哉先生である。「無印良品」は日本で有名な雑貨ブランドである。この本で説明されている「無印良品」のデザイン理念によって日本人の「退歩」に関する哲学が分かる。

「無印良品」のスタイルと設計理念とは質素、飾らないこと、モノの本質を還元すること、また自然と快適、そして地球にやさしいことである。その中に映された日本人の生活態度は、素朴なものを好むこと、簡潔だが品質のよい生活を求めること、環境に優しい生活態度である。これに基づき、素材の運用が十分であるか。物品の大きさ、重さ、包装が適切であるか、生産や輸送に不必要な無駄がないか、モノの生産、輸送から廃棄、回収までを再考し、自省する。このことから、日本人はよく自分の言行を反省する民族だと思う。

高度に発達した社会の中では「過度進歩、過度繁栄」の意味を常に省み続けている。だからこそ、日本人はそんな洗練された、シンプルなデザインをすることができるのだろうか。この

ような簡単な中に、人間性に対してもっと多くの配慮がある。デザインでは、日本人は誰よりも「空」の中身を理解している。

「空」とは、不必要な外的刺激を排除して、人の魂をこの空間に入れて自分を感じる器である。中国の寺院の華麗さとは対照的に、日本の寺院は、ほとんどが素朴でシンプルである。多くの中国人は初めて日本の京都の銀閣寺で枯山水を見た時、とてもがっかりするという。中国人の観点から見れば、これはあまりにも粗末なものだからである。何度か見ると、「余白」の良さを感じるようになる。日本人デザイナーの作品はいつも禅のような静寂さをにじませている。彼らの自然への感得、生活への賛美は、いつも細かいところに小さな知恵を感じさせることができる。これは、日本の限られた土地、恵まれない資源や急速に増えた人口に関係しているかもしれない。日本人デザイナーは、日常的な生活の中で常に小さなアイデアを灯すことができるようになってきているようである。また、彼らは「人」と「環境」をより重要な位置に置くことが多い。

原研哉の哲学とは、何だろうか？ 私は彼の哲学は、冒頭に述べた「退歩」の哲学であると思う。アメリカの商業消費社会のスローガンは「私はこれがほしい」、「これ」は個人の意思に対する断固とした宣言である。しかし、「これ」の表現の意味は自意識が強すぎて、個性というものがむやみに高く評価され、周囲と衝突しがちがある。原研哉は「これでいい」ということを提唱している。「これでいい」というのは、品質が要求されていないのではなく、個人の欲望を抑えることである。一步下がってより広い範囲を見渡す、より真の心の自由に近づくことである。「これでいい」は素晴らしい退歩であると思う。農夫が田植えをするように、自分の頭を低くしているからこそ、水田に映っている空がよく見える。後戻りしているからこそ、田植えを続けていける。それは生活についての「退歩」の哲学である。「退

歩」は必ずしも消極的な態度と失敗ではなく、積極的な進歩と収穫である。同じように、写真を撮るとき、広角レンズをより独特かつ効果的にするためには、一步下がってシーンがレンズに取り込まれるかどうかを見ることが必要である。時には、一步後退するのは局部だけで、そうすれば私たちはずっと後退してすべての草花と木を撮影することができる。このような「退歩」は、人々をより遠くから明瞭に見られる。

人類社会は常に競争の社会であり、このような社会の中で、私たちは生きるために多くの挑戦に直面しなければならない。この本からこのような物欲に溢れた社会では、私たちが純粋な心境を保つべきことを学んだ。



【译文】

## 积极地退步

乔迪婧

南京邮电大学

最近读了一本名叫《设计中的设计》的书。这本书的作者是日本著名的设计师，著名杂货品牌无印良品的艺术总监原研哉先生。通过这本书里原研哉先生所介绍得关于无印良品的设计理念，使我了解到了关于日本人退步的哲学。

无印良品的产品风格和设计理念就是朴素、不加修饰、还原事物的本质，并且追求自然、舒适、环保。这种设计理念也从侧面反映了日本人的生活态度，即喜好朴素、追求简洁但优质的生活，以及注重环保的生活态度。基于此理念和态度，他们经常反复思考、自我反省的是原材料是否被充分利用？物品的大小、重量、包装是否合适？生产和运输过程中是否有不必要的浪费？从这点来看，我认为日本人是一个会经常反省自己言行的民族。

在高速发展的当今社会中，日本人会不断反思“过度进步、过度繁荣”的意义。正因为如此，他们才能想出如此精致干练、质朴简洁的设计。但在这样所谓的简洁中，反而对人性有了更多的关怀。在设计方面，日本人比谁都能理解“空”的含义。所谓“空”，就是排除不必要的一切，将人的灵魂放入这个空间中去感受自我。与中国庙宇的华丽截然不同，日本的寺院几乎都很朴素简约。许多中国人第一次在日本京都银阁寺看到枯山水时，心里感到非常失望。因为从中国人的理解角度来看，这未免也太粗糙了些。但多看几次后，会逐渐品味到“留白”的韵味。日本设计师设计出来的作品里面总是掺杂带有禅一般寂静的感觉。他们对自然的

感悟，对生活的赞美，总是可以使产品细节充满智慧。日本设计师们在日常生活中也总能产生某些小灵感。这点也可能与日本国土有限、资源匮乏和急速增加的人口有关系。因此他们总是将“人”和“环境”放在最重要的位置上来考虑。

原研哉所提到的哲学是什么？我认为他的哲学是关于退步的哲学。在美国商业社会里经常被提到的口号是“我就要这个”，这是对个人意愿的坚定声明。但是表达出的感觉有点过于自我，所谓的个性在美国也被过度赞誉，这样一来，其实很容易与周围发生冲突。原研哉提倡“这样就好”。所谓“这样就好”，并不是对质量没有任何要求，而是要去抑制个人的私欲。或许有时后退一步才能看到更广的范围，才能更接近内心真正的自由。我认为“这样就好”是一种积极地退步。像农夫插秧时那样，正是因为自己的头低着，才能清楚地看到水田里倒映出的美丽天空。也正因为不断后退，才得以能够继续插秧。这正是日常生活里有关退步的哲学。退步不一定代表消极的态度和失败，反而代表一种积极的进步与收获。同样地，拍照时，为了使镜头下视角显得更加独特，需要退后一步查看镜头是否捕获了场景。但有时，后退一步也只能拍摄到局部场景，需要我们一直后退，才能拍摄到所有的花草和树木。这种退步，反而使我们能看得更远更清楚。

人类社会是一个竞争的社会，在这样的社会中，为了生存下去，我们有时必须要直面很多挑战。从这本书中我学习到了一种生活态度，那就是在这个物欲横流的社会里，我们同时也要学会保持心境的纯粹。

## 祭りで繋がる —「祭りのない夏に」を見て



郭倩钰  
上海外国語大学  
笹川杯作文コンクール 2020 年度一等賞

今年は例年とは異なる。なぜなら、今年は新型コロナウイルスの災いに見舞われたからだ。新型コロナウイルスは人々の生活に大きな打撃を与えた。各地では様々な祭りが中止に追い込まれた。NHKの『新日本風土記』が放送した「祭りのない夏に」は、日本の夏祭りの現状と過去の風景を描いた。私はそのドキュメンタリーを見て改めて夏祭りが日本人にとってどれだけ大切かを感じさせられた。

今年の夏は祭りが相次いで中止となった。祇園祭、ねぶた祭など有名な祭りの名前がいくつも出てきた。その多くの物語の中で、ねぶた祭に関わる親子の話が最も印象的であった。ねぶた師は一年間かけてねぶたを作り、ねぶた祭りで他のねぶた師と腕を競う。木村春一は最優秀賞を二度受賞した父の背中を追い、ねぶた師の世界に飛び込んだ。春一は父に対し、うれしい気持ちもあれば、悔しさもある。その悔しさが自分の頑張る力になり、春一は腕を磨いている。私はこの二人の物語に強く心を打たれ、素晴らしい親子だなと思った。祭りを通し、親子の

絆が一層深くなったように感じる。

そして、その過去の祭りの風景を思うと、今年は静かな年となってしまう、何だか切ない。日暮れと共に現れる提灯のトンネル、大声で叫びながら神輿を背負う男たち、いずれも地元の人々の祈りの証である。

しかし、新型コロナウイルスのせいで、今年は一緒に盛り上がることができない。日本の人々の残念な気持ちが私にもよく分かる。新型コロナウイルス感染爆発は、ちょうど春節休暇に起こった。故郷に帰ることができず、オンラインで家族と一緒に年越しをした。去年は大晦日には家族そろって夕食を食べながら、年末番組を観賞していた。しかし、新型コロナウイルスの深刻な状況にあって、そうしたことさえ不可能なことになってしまった。その時、一緒にギョーザが食べたい、新年の挨拶回りに行きたいと心の底から叫んでいた。そのためか、ドキュメンタリーで「悲しい、来年まで遠すぎる」と泣いている女性を見た時、自分も泣きそうになった。国籍は違うが、その感情は身に染みて理解できる。国境を越えたつながりができたように感じる。

一方で、質的な距離は遠ざけられたが、心の距離は近くなった様子も映し出されていた。阿蘇のおじいさんは祭りのために育てた稲を手で握り、落ち込みながら、「コロナに気持ちじゃ負けたくない」と力強い言葉を言い出した。そして人々は互いに距離を取りながら、それでも懸命に歌い続けていた。祭りがなくても、地元の人たちの絆が切れることはない。むしろ祭りがなくなったからこそ、その大切さを改めて確かめ、来年こそは熱狂する夏になるようにと祈っているのではないだろうか。それは祭りの力であり、その力が地元の人々をずっと支え続けている。

このような絆はコロナ問題に打ち勝つ原動力になるだろう。来年こそ、祭りに燃える夏となり、人々の笑顔がもう一度見られることを願っている。

【译文】

## 从节日活动产生的羁绊 —观“没有节日活动的夏天”有感

郭倩钰

上海外国语大学

今年和往年不同，新冠疫情在全球肆虐，给人们的生活造成了巨大的打击。各地都被迫停止举办节日活动。NHK“新日本风土记”栏目播出了名为“没有节日活动的夏天”这一纪录片，描绘了今年夏天日本节日活动举办的现状以及往年活动的景象。我通过观看这部纪录片，重新认识到了节日活动对日本人的重要性。

今年的夏天，节日活动纷纷停办，纪录片中也叙述了祇园祭、睡魔祭等有名的节日活动的相关情况。在纪录片中介绍的众多有关节日的故事中，最令我感动的是一对父子围绕睡魔祭发生的故事（日本青森的民俗之一，节日期间，以日本和中国的历史上的人物、歌舞伎、神佛等为题材进行创作的巨型花灯吸引着众多游客。）。“睡魔师”用一年的时间制作大型花灯，在睡魔祭到来之际和其它手艺人进行花灯比拼。作为“睡魔师”的父亲曾经在睡魔祭上两次获得最优秀奖，木村春一也追随父亲，成为了为睡魔祭制作花灯的手艺人。对于春一来说，他既为父亲能获得优胜而感到开心，但是同时也为自己和父亲的差距而不甘。这种不甘成为了他前进的动力，春一不断地在提高自己的能力。这对优秀的父子通过节日活动这种特殊的方式，加深了亲子之间的羁绊，令人感动。

一想到这样过去的节日景象，就觉得今年的夏天寂静地让人难受。在黄昏时亮起的灯笼隧道，一边大声呐喊一边扛着神轿的

男人们，这些都是当地居民祈愿的证明。

但是今年因为新冠疫情，不能聚在一起共度节日。我也能充分明白日本人民的心情。新冠疫情的爆发正好是在春节期间，因为不能回到故乡，我和家人们通过线上的方式一起度过了除夕夜。去年的春节，家人团聚，我们一边吃着年夜饭，一边观看春晚，其乐融融。但是，新型冠状病毒悄然而来，团聚也成了奢望。那个时候，我在心底喊着“想一起吃饺子，一起去拜年”。或许是因为这样，我看到纪录片中一位女性哭着说：我觉得好难过，离明年的夏天太远了“的时候，我的眼眶也湿润了起来。虽然国籍不同，但是能切身感到对方的心情，我们之间超越国境建立起了某种联系。

另一方面，虽然现实中的距离拉远了，人们心灵的距离却拉近了。阿苏的老爷爷紧握着祭祀用的稻苗，虽然脸上有些失落的样子，但是却强有力地說出“至少在心理上我绝对不想输给新冠”。同时我也看到人们即使隔着一定的距离，也竭尽全力地唱着祭祀的歌谣。即使没有节日活动，也没有切断人与人之间的羁绊。不如说正是因为节日活动的取消，才让人们重新认识到了节日活动的珍贵，祈祷着明年热烈的夏天。这就是节日的力量，这种力量一直在支撑着人们！

我相信这样的羁绊一定会成为战胜新冠的动力。希望明年的夏天因节日活动而火热，我们能看到人人脸上都洋溢的笑容。

## 和辻哲郎「古寺巡礼」 ----- 仏像を通じた東西の異文化交流



余憧欣  
遼寧師範大学  
笹川杯作文コンクール 2020 年度一等賞

「四天王の着ている鎧も興味を引いた。皮らしい性質がいかにも巧妙に現わされている。両腕の肩の下のところには豹だか獅子だかの頭がついていて、その開いた口から腕を吐き出した格好になっている。その口には牙や歯が刻んである。それがまたいかにも堅そうな印象を与える。」この部分を読んだ時、私は東大寺の四天王の前に身を置いている感じがした。荘厳な空気の中で、四天王の表情が恐ろしければ恐ろしいほど、私たちを守ってくれる力強さと安らぎを感じる。「仏菩薩はインド風あるいはギリシア・ローマ風の装いをしているのに、何ゆえ護王神の類はシナの装いをするのか。」和辻哲郎は四天王を通してインドとギリシア・ローマ、中国の文化の結びつきを考えている。それは仏教が日本に伝ってきたシルクロードを通じた東西の文化交流である。

「古寺巡礼」は作者の和辻哲郎が哲学専門を卒業してから五年後に、奈良の古寺を見学して書かれた印象記である。人々を救うために作られた仏像を和辻は仏教美術という視点から捉え直

している。では、和辻はどのようにして奈良の古寺を巡礼したのだろうか。仏教の伝わってきたシルクロードは最初、和田玉と汗血馬を輸入するための道であった。貿易の範囲が拡大すると中国からはシルク、ローマからはガラスなどが交易されるようになった。前二年、仏教がインドから中国に伝わった。仏教が日本に伝わってきた長い道のりを考えると、四天王にギリシア・ローマ芸術の影が見られるのも理解できる。和辻は奈良の古寺を巡礼しながら、仏教を通した東西の文化の交流と融合を見ているのだ。

アジアでは、様々な仏教芸術が発展している。中国でも日本でも仏像は一見、同じように見えるが、細かく比較してみると、地域や時期によってそれぞれ異なった特徴がある。例えば、奈良の唐招提寺の盧舎那仏と洛陽の龍門石窟の盧舎那仏と比べてみよう。石窟の盧舎那仏は則天武後の顔を真似て作られたそうだ。石窟の盧舎那仏は神秘的な微笑みを浮かべている。それに対して唐招提寺の盧舎那仏は優しさと暖かみを感じる。仏像や観音像というと、私にも思い出がある。引っ越しの時、母に連れられて観音像を買いに行った。戸棚の中に色々な観音の顔が並んでいた。「好きな観音様を選んでいいよ。」と母は言った。ひとつひとつの観音像はそれぞれ魅力があった。それは観音像の中に様々な地域の文化が交じりあって融合しているからだと思う。

異文化交流は新しい文化を生み出す。私の中にも異文化交流がある。私は日本語を通して日本文化という異文化を学んだ。だから私の性格には中国文化の「実行の早さ」と、日本文化の「粘り強さ」という両方の文化の長所がある。東西文化や中日文化の交流と融合は二千年以上前から続いている。阿倍仲麻呂や鑑真和上のように、私は中国の文化と日本文化の良いところを合わせて、更に素晴らしい文化を作っていきたい。それが私の巡礼である。



【译文】

## 和辻哲郎《古寺巡礼》 ——以佛像为媒介的东西方文化交流

余憧欣

辽宁师范大学

“四天王像身上穿着的铠甲也引起了我的注意，动物皮毛的质地表现得十分巧妙。双肩处的装饰不知是豹子头还是狮子头，手臂就像是从其口中吐出的一般。装饰的口中刻有牙齿，给人感觉坚不可摧。”在读到这一部分时，我仿佛置身于东大寺中四天王像的脚下。佛寺庄严，四天王像表情越是可怖，便越能体现出其守护众生的强大与稳健。“佛陀与菩萨的装束带有印度或是希腊罗马的风格，为什么护王神的装束却是中国风的呢？”和辻哲郎透过四天王像看到了印度、希腊、罗马以及中国等各国文化的交融。这种东西方文化的交流通过丝绸之路，将佛教传到了日本。

和辻哲郎从哲学专业毕业五年之后，到奈良的古寺观摩学习，从而写出了印象记——《古寺巡礼》一书。佛像本是众生为了佛能普度自身而建造的，和辻哲郎却以佛教艺术的视角重新对佛像进行审视。那么和辻哲郎又为什么要到奈良的各座古寺去礼拜呢？佛教向东流传而去所依托的丝绸之路最初是汉王朝为了引进和田玉和汗血宝马而开辟的商路。随后贸易的范围不断扩大，各国开始输出各自的特产，如中国的丝绸和罗马的玻璃等。公元前2年，佛教从印度传往中国。只要想到佛教传到日本所需的漫长历程，四天王中有希腊罗马艺术的影子也不足为奇了。和辻哲郎在礼拜奈良古寺的同时，望见了千年前以佛教为媒介进行的东西方文化交流。

亚洲地区，佛教艺术兴盛。中国和日本两国的佛像乍看之下没有大区别，但只要仔细观察就能发现，地域和时期不同，佛像也有各自的差异。比如奈良唐招提寺的卢舍那佛和洛阳龙门石窟的卢舍那佛。据说龙门石窟的卢舍那佛的脸模仿了武则天的面容进行建造。其上浮现的微笑十分神秘。而唐招提寺的卢舍那佛则能够让人感觉到温暖和柔和。说起佛像和观音像，我也有过一段缘分。搬家的时候，母亲带我去买观音像。架子上摆放着各式各样的观音像，母亲对我说“选一座喜欢的观音菩萨吧。”每一座观音像都有各自的魅力，应当是因为在这些观音像当中交融着各个区域的文化。

跨文化交际可以衍生出新的文化。跨文化交际也体现在我自己身上。我通过日语学习到了日本文化，因此我的性格当中，既有中国文化的果断，也有日本文化的坚毅。东西方文化或中日文化等跨文化交流有着超过两千年的历史。我也想与阿倍仲麻吕和鉴真和尚一样，结合两国优秀的文化，衍生出更为灿烂的文化。这是我自己的文化礼拜。

## 今度やろうは馬鹿野郎



劉華  
南通大学  
笹川杯作文コンクール 2020 年度二等賞

過去、いろいろな日本のドラマを見てきた。大学で日本や日本語について学んでいるが、実のところ、日本のドラマを通じて、本物の日本を知るようになったと言っても言い過ぎではない。ドラマに映る日本の素敵な景色、例えば、日光街道の杉並木やどこまでも青く清い琵琶湖、雄大な富士山などとてもすばらしい。それらのすべてが大好きだ。ドラマ登場人物のセリフから、日本人の物事をはっきりさせない曖昧さも実感する。もしある人が好きになれば、愛してるとは言わないけれど、好き、大好きっていう。日本のドラマから、そんな日本語の曖昧さを何度も実感した。しかし、中国人としては直接的に自分の言いたいことをはっきり言いたい。電話をする時、中国人は「もしもし、私は劉です。」と言う。日本人は「もしもし、劉ですけど。」と言う。小さな違いだが「けど」をつけて向こうの雰囲気を感じ取りながら、遠慮がちに電話をする。そんな曖昧さが好きだけれど、逆にちょっとした直接的な日本語に感動する時もある。例えば、「いつやるか？今でしょう。」という林修の流行語。聞けばすぐに元気が出る。これは「時間を潰すな、今仕事とか勉

強とかに取り掛かりなさい。」という意味の言葉だけれども、私は林先生の短い言葉を聞いた瞬間、毎日何もしないで時間を潰すのは罪だと心から納得する。

「プロポーズ大作戦」というドラマで、主人公の岩瀬健は、思いを寄せていた幼なじみの吉田礼に告白できないまま無為に、時を過ごしてしまった、そして、結局彼女の結婚式に友人として出席するということになる。彼は妖精の力を借り過去に戻る恋の成就を試みるためだ。しかし、残念なことに、最終的に彼は未来を変えることはできなかった。過去をやり直しても、結局最後まで、彼は吉田礼に告白することが出来なかったのである。残念な結果は変わらなかった。吉田礼のおじいちゃんが言った。

「今度やろうは馬鹿野郎。明日やろうも馬鹿野郎。思い立ったらすぐ何でもやらなきゃダメだ！」この言葉は私に刺さった。この短いセリフを聞いた瞬間気がついた。今までの自分は何をやってきたのか。いつも明日があると思い、やろうと思ったこともすぐには実行せず今度やろうと自分に言い訳して自分を慰めてきた。「今度やろうは馬鹿野郎」このセリフが私を変えてくれた。思い立ったことはすぐに行動に移す。美味しいと思ったら、その場で言葉にする。会いたいと思ったら、いつでも会いに行く。言いたいと思ったら言え。言わなくても伝わるなんてと思ったら大間違いだ。私はそのように行動の基準で生きることにした。

時間には限りがある。有効に使うか無駄にするかは、自分の使い方次第だ。いつも明日があるからと思ったら痛い目にあうだけだ。死んでいく時にやりたいことをやって良かったと後悔しなかった者が勝ちだ。

【译文】

## 总是说下次再做的人是傻子

刘华  
南通大学

以往，我看过很多日剧。在大学的时候学习了有关日本的知识 and 日语，实际上，可以说是通过日剧逐渐了解了真正的日本。电视剧中放映出的日本美景，比如说日光街道的杉树林、碧绿清澈的琵琶湖以及雄伟的富士山等景色都很美。它们的一切我都非常喜欢。从日剧中的人物台词中，我真切地感受到了日本人那种做事时模棱两可的“暧昧性”。日本人如果喜欢一个人，他们虽然不会直接说我爱你，但是会说我喜欢你。从日剧中，我多次确切地感受到了日语的暧昧性。但是，作为中国人则会直接把自己想说的话真实地表达出来。比如打电话的时候，中国人会说：“喂，我是小刘。”日本人则会讲：“喂，不好意思，我是小刘。”虽然只是微小的差别，但是一边加上“不好意思”用来推测对方接到电话时的心情，一边又很客气地打着电话。虽然这种“暧昧性”我很喜欢，但偶尔也会被有点儿直接的日语所感动。

比如说林修先生的流行语“什么时候做？就是现在吧。”。我只要听到这句话就立马有了干劲。虽然只是“不要浪费时间，现在就开始工作和学习吧。”这样简单的意思，但是在听到林老师这简短话语的瞬间，就会从心底里觉得每天什么都不做，消磨时间就是罪过。

在《求婚大作战》这部日剧中，主人公岩濑健由于无法向心仪的青梅竹马吉田礼告白，就这样任由时间流逝没有做出行动，最后他只能作为朋友出席了她的婚礼。后来他借助妖精的力量，

只为试着回到过去向吉田礼成功表白。可惜的是，他最终没能改变未来。即使回到过去，直到最后也没能向吉田礼表白，遗憾的结果没有被改变。在剧中，吉田礼的爷爷说过。

“总是说下次再做的人是傻子。说明天再做的人也是傻子。想到什么就必须马上做！”这句话深深地刺痛了我。

听到这句短语的那一瞬间，我恍然大悟。至今为止的自己都做了些什么。总是想着明日复明日，想做的事情也没有立马去做，而是用着“下次再做吧”这一借口来安慰自己。“总是说下次再做的人是傻子”这句话改变了我。想到的事情就要马上付诸行动。觉得食物好吃的話，就当场说出来；如果想念的话，无论何时也都要去见面；想说就说，如果想着不说也表达给对方，这样是大错特错的。我就是以这样的行动准则来生活的。

时间是有限的。有效利用时间还是浪费时间都取决于你自己。老想着还有明天，会吃到苦头的。生命垂危的时候想着还好做了自己想做的事情，这样没有遗憾的人才是胜者！

## 欠かせない自分の考え



李聡  
大連外国語大学  
笹川杯作文コンクール 2020 年度一等賞

“Let’s think.”

これはドラマ『3年A組』の一つのセリフです。それを聞いて、私は深く考え込んでいました。

卒業式の前日、柊一颯先生は生徒の澪奈が自殺した原因を調べるために、クラス全員を人質にして、ネットで生放送しました。澪奈は優秀な水泳選手でしたが、SNS でドーピングをしたという動画が曝されてから、ネット上でも罵詈雑言や中傷が絶えず、真実を知らなかったクラスメートに孤立させられました。このような暴力は高校生にとって身体上の傷害にも劣らないほどつらいものです。柊一颯先生は極端な方法を選んでいましたが、人質になった学生たちとネットユーザーに教訓を与えていました。スクリーンの前でそれを見ていた私も強くショックを受けました。このドラマはネット暴力を生き生きと表してくれました。これはインターネットが発展してきた今では、人々が最も注目している話題の一つでもあります。

我々人間は何か道徳に反することを見たら、ほぼすぐに反射的に非難します。しかし、その目で見たことが本当に事実なの

か？ 湊奈は本当にドーピングをしていたのか？ 誰にも胸を張って断言する権利はありません。本人にしか発言権はないのです。『オックスフォード辞典』によって 2016 年度のその年を最もよく表す言葉として “post truth” という言葉が選ばれました。“post truth” とは「客観的事実を述べるよりも感情と個人の信仰に訴える方が民意に影響を与える状況」という意味で、事実はもう前ほど重要ではなくなっています。私達はいわゆる「事実」に基づいて善悪を判断しているわけではありません。「真実がまだ靴を履いている間に、うそはもう市内を駆け巡った」というチャーチルの名言があるようです。今のような情報社会では、ネットを通してなんでも手に入れることができます。文字も絵も短い動画もなんでもあります。しかし、それは必ずしも真実を表してくれるものではないのです。

私が言ったその言葉で、言われた人がどれだけ傷ついたのか、自分ではわかりません。さらに、自分が言ってしまった言葉が自分の本心ではないこともあります。我々はただ多数派の視点から、自分で何も考えずに勝手にこんなにも人を傷つける言葉を言ってしまいます。ですから、日常生活でもネットでも、もっと自分で考えれば、世の中で湊奈のような悲劇はなくなると信じています。

「うわべだけで物事を見るな、本質から目を背けるな、よく考えるんだよ！」と柊先生が言ったように、ネット生活の中でどんなことに出会ったとしても、よく自分で考えて、自分の見解を持たねばならず、人の話を受け売りしてはなりません、人の心を傷つける「ナイフ」を突き刺してはいけません。“post truth” の世界にならないために、ネット暴力をなくすために。

“Let’s think.”



【译文】

## 不应存在的网络暴力

李聪

大连外国语大学

“Let’s think.”

这是电视剧《三年 A 班》中的一句台词。看着这句话，我陷入了沉思。

毕业典礼的前一天，佟一飒老师为了调查学生溲奈自杀的原因，绑架了整个班的同学，并通过在网络上直播给所有人看。溲奈是个优秀的游泳运动员，但是自从在 SNS 上被曝出她服用兴奋剂后，网络上对她的谩骂诋毁不断，同时不知真相的班级同学也开始孤立她。对于一名高中生来说，这样的暴力比身体上的伤害更令她无法忍受，最终选择了自杀。佟一飒老师虽然选择了极端的处理方法，却给成为人质的学生们和看到直播的网民们一个深刻的教训。我透过屏幕前看着这一切，也感到了极大的震惊。这个电视剧淋漓尽致地表现了互联网发展至今人们最关注的话题——网络暴力。

我们普通人如果看到某些不道德的事情，几乎马上会条件反射地去谴责。但是，我们眼睛看到的一定全部都是事实吗？溲奈是真的服用兴奋剂了吗？这件事除了溲奈本人，恐怕谁都没有权利去做出论断。

2016 年，《牛津辞典》把“post truth”评选为当年的年度词汇。

“post truth”意为“后真相”是指“比起客观事实，感情和个人信仰更能影响民意”。也就是说，事实已经变得很次要了，而我们也没有根据事实来判断善恶。丘吉尔有句名言说“当真相在穿鞋

子时，谎言已经跑遍了全程。”在现在这样的信息社会里，无论是文字、图片还是短视频都能通过网络得到，但这些都不一定是真实的。

我们常说“别让你的舌头跑在思维前面”，但是有人站在实地调查中取证，冷静理智地推测结果吗？我们大家总是跟随大多数的观点，毫不思考地随便发表意见，被认为“只是一句话而已”的那句话，却可能成为雪崩时的那一片雪花。但是，我相信如果能在准备说话之前再考虑一下，再调查一下的话，世界上就不会出现像涪奈那样的悲剧了。

“不要只看表面，不要把目光从本质上移开，要好好思考！”就像佟老师所说的那样，在网络生活中好好思考，不要把伤人的刀插入陌生人的心里。不要让真相变成“post truth”，根除网络暴力，let's think。

## 宮部みゆき—「火車」を読んで



蔡蕙仙  
延辺大学

笹川杯作文コンクール 2020 年度二等賞

初めて日本の小説に触れたのは、中学生の頃「火車」という小説を読んだときであった。それから日本の小説にハマって、また日本という国を愛するようになった。「火車」を書いた作家は宮部みゆき、日本のミステリー作家で、私が一番好きな作家でもある。

小説は主人公である刑事本間俊介に、妻の親戚の栗坂和也が尋ねてきて、行方不明になった婚約者関根彰子を探してほしいと頼みから始まり、本間の視点で事件の真相に近づいていく。本間は捜査で関根彰子が五年前の自己破産がバレて逃げたのだとわかり、彼女の自己破産の手続きを手伝った弁護士を尋ねるが、そこでとんでもないことを知ってしまう——彼女は関根彰子本人ではなく、関根彰子の身分を偽装していたのである。

中学生の時は中国語で読んだが、日本語ができるようになって、二年生の時、日本語で書かれた原文を読んだ。初めて「火車」の原文を読んで、その文の繊細さがそのまま伝わってきた。訳本では感じられない日本語特有の静かな雰囲気、豊富な感情表現を心で感じ取ったのである。宮部みゆきの文章では、すべて

の人物がそれぞれの個性を持ち、文章の一字一句が一人一人の人物を生きているかのように形作っていた。何より素晴らしかったのは、主人公である新城喬子の人物像である。それは、捜査中に彼女と接触のあった人々から聞き出した内容を基に、彼女のイメージがほぼ完成されているというところだった。彼女がどんな境遇に遭ったのか、なぜ他人の身分を奪わなければならなかったのか、作品を読んでいるあいだに理解できるようになったのである。訳本では感じられなかった繊細さと表現の豊かさ、本を読み終わった時、思わず「これこそ本物の宮部みゆきだ」と叫んだ。

「火車」は決して優しい物語ではない。この作品では、社会の問題としてカードローン、カード破産、借財と多重債務をめぐる、社会的地位が低く、親兄弟も、身内の人もいない、借金に翻弄される女性たちの人生を描いていた。まさに残酷で「優しさ」を云々する余地もないのではないかと思うかもしれないが、苦味の中にほんのり漂う甘さのように、宮部みゆきはそのリアルな残酷の中から暖かさを書き出したのだ。物語はものすごくリアルなものの、結末は優しいというのを強く感じた。また、非情な現実を語る一方、カードローンに追われる彼女たちのために代弁しているという感じも少しあった。普通カードローンと言えど使った人が悪いという印象があるが、これを読んで、自分にも十分に起きうることだと教えてくれたような気がした。これがまさに読者を魅了する宮部みゆきの作品の優しさではないかと思う。

「火車」は私にとって日本という国に踏み入る「扉」のような作品であった。私はその扉を越えて、日本の美しさと優しさを知ることができた。そして今度は私とその扉をみんなに開けるために、翻訳者という、近くて遠い夢に向かって前に進みたい。

【译文】

## 阅读宫部美雪的“火车”

蔡蕙仙

延边大学外国语学院

我第一次接触日本的小说，是中学的时候，是那一本叫“火车”的小说，让我从此以后便沉迷于日本的小说，甚至于进而爱上了日本这个国家。

小说以刑警本间俊介为主人公，从他已故妻子的亲戚——栗坂和也，来拜托他寻找失踪的未婚妻关根彰子开始，以本间的视角逐渐接近真相。本间在搜查过程中发现关根彰子是因为个人破产被发现而逃跑，去拜访了曾经帮助她办个人破产手续的律师，但在那里得知一件非常惊人的事实——她不是真正的关根彰子，而是夺取了关根彰子的身份。

我中学读这本书的时候是用中文读的，但是学会了日语之后想用日语再读读看，便买了原文来读了。第一次用日语原文读“火车”，感受到了这个文章到底有多细腻。日语特有的静静的氛围，丰富的角色语和情感表现，遇到宫部美雪纤细的文章，让每一个角色拥有了个性，文章中的每字每句都在描绘他们的样子，仿佛每一个人都是有生命的。其中最为精彩的是，作品中的主人公新城乔子（伪装成关根彰子的人物）真正登场的部分只有最后一个场面，几乎所有关于她的情报的来源，都是本间在搜查过程中从与她有过接触的人物们的口中听到的故事。然而就凭这些故事就足够让我了解了她这个人物。她经历了什么，为什么要夺走别人的身份活下去，读着读着，就理解了。读译文的时候没有注意到的一些细小的冲击，让我感觉到了“这就是真正的宫部美雪”。

“火车”并不是一个温柔的故事。这个作品围绕着信用卡贷款，个人破产，借款，多重债务等社会问题，描绘了那些在社会上地位低，身边没有家人和朋友，又因债务受苦的女性们的人生。或许会觉得残酷到没有能够提及“温柔”的余地，然而宫部美雪在那个最真实的残酷中写出了温暖，就像苦中带着甜一样。故事虽然非常现实，但结局明显地温柔。以及，一边谈着无情的现实，一边则让我感觉在为那些被贷款折磨的女性代言。一般提到信用卡贷款，都会先指责用的人不对，但是这本小说提醒了我，这样的事情很有可能也会发生在我的身上。我认为这正是宫部美雪的作品吸引读者的温柔之处。

“火车”是我踏入日本这个国家的“门”。我跨过了这扇门了解了日本的美和温柔。这次我为了给大家开启那扇门，向翻译者这个既进又远的梦想踏出一步。

## 新時代の「甕」と中日友好



王麗媛  
中央財經大学  
笹川杯作文コンクール 2020 年度二等賞

2020年2月、新型コロナウイルスの影響で中国の多くの地域でマスクや防護服など医療物資が不足していた際、日本の各界から支援物資が続々と届けられていた。そのなか、日本青少年育成協会が湖北省内の大学などへ寄付したマスクや体温計の段ボール箱に書かれた「山川異域、風月同天」という漢詩は話題となった。その漢詩は、約1300年前に日本の長屋王が唐に送った千枚の袈裟に縫い付けられた「山川異域、風月同天。寄諸仏子、共結来縁。」という詩句に由来する。長屋王の誠意に感動された鑑真が日本へ渡ることに決意したと古書に記されている。日本から中国への緊急支援に対し、中日友好交流の歴史のエピソードが再び蘇って、ネット上で「武漢への支援物資に、1300年近く前の長屋王の言葉を添えて想いを伝えるなんて、胸熱。」などの声が広がっている。

鑑真の話から井上靖の歴史小説『天平の甕』を思い浮かべた。天平時代、日本の留学僧は鑑真を誘うために中国へ派遣された。彼らが幾多の紆余曲折を経て、異国で客死し、あるいは海の藻屑と消えていった。そして留学僧の願いに応え、鑑真は五回の

失敗を経て盲目になりながらも、やっと六回目の渡海で日本にたどり着いた。つまり『天平の甕』には留学僧と鑑真の強い意志と献身精神、また昔からの中日友好交流の難しさが力強く描かれている。その題名の「甕」とは「家屋の背」のことである。日本への帰国を果たした留学僧の手元に、やがて唐から持ち帰った一枚の甕があった。後にその形を用いて、唐招提寺の金堂が完成されたのだという。井上靖がきっと唐招提寺の甕に目を向けて、ありとあらゆる苦難をなめ尽くした鑑真と留学僧のことを思い出して、「甕」をその交流の証として小説を創作したのだろう。

新時代に入った今、この小説を再読してみたら、「甕」は家屋建築の重要な部分だけではなく、中日両国の人々が友好関係を代々築いていく原点と象徴でもあると思うようになった。中日交流の歴史を心に銘記し、共に今後の友好関係を構築する努力が必要である。深刻な新型コロナウイルスの危機に直面している今、互いにマスクや防護服などを寄付し合う交流の中、共通文化の漢詩は新時代の「甕」として両国の人々の心を温めた。中日両国人民が手を携えて疫病と戦う精神は『天平の甕』の鑑真と留学僧と同じだと思う。

確かに、中日両国の間には軋轢が生じたことがある。それにしても、中日関係は遠ざかるのではなく、より強い絆で結ばれるようになったと思われる。このことから、新時代の若者は「甕」の精神を受け継いでいくべきだと思う。雨にも負けず、風にも負けず、両国は必ず今の疫病の難関を乗り越えることができると信じている。そして中日平和友好の美しい未来がきっと切り拓かれるだろう。中日友好交流のシンボルとする「甕」を代々手渡していけるよう心から願っている。



【译文】

## 新时代的“蕞”与中日友好

王丽媛

中央财经大学外国语学院

2020年2月，受新冠肺炎疫情的影响，中国多地出现了口罩、防护服等医疗物资不足的问题，在此时中国收到了日本各界捐助的物资。其中，日本青少年育成协会向湖北省内高校捐赠了口罩和体温计等，在装有物资的纸箱上印有“山川异域，风月同天”，这也成为了热议的话题。这句古诗的来源要追溯到大约1300年前，当时日本长屋王赠予唐王朝一千件袈裟，袈裟上缝有“山川异域，风月同天。寄诸佛子，共结来缘”的诗句。古书中曾有记载，鉴真感动于长屋王的诚意，于是决定东渡日本。日本对中国的紧急支援让中日友好交流的历史再次焕发活力，对此网络上也是一派热闹。有人表示：“在支援武汉的物资上添加1300年前长屋王的汉诗，以此传达情感，很是感动。”

从鉴真东渡，我想到了井上靖的历史小说《天平之蕞》。天平时代，为了邀请鉴真传道，日本派遣了留学僧来到中国。留学僧们几经波折，或客死他乡或魂归大海。鉴真为了满足这些留学僧的心愿，经历了五次渡海失败，甚至双目失明，终于在第六次东渡时到达了日本。《天平之蕞》中强有力地描写出了留学僧和鉴真身上坚强的意志与献身精神，同时也反映了当时中日交流的困难。书名中的“蕞”是指“屋脊”。回到日本的留学僧从唐王朝带回了一枚蕞，而后参照蕞的形状建造了唐招提寺金堂的屋脊。井上靖或许就是看到了唐招提寺的蕞，想到了鉴真和留学僧们曾历经艰难困苦往返中日两国的故事，将“蕞”作为中日交流的见证创作

了《天平之藁》。

进入新时代，再读《天平之藁》，“藁”不仅仅是建筑中重要的组成部分，更象征着中日两国人民友好关系的原点。这启示着我们应该将中日交流的历史铭记于心，一同努力构建中日友好的未来。面对新冠肺炎疫情，中日两国互相捐助口罩和防护服等。那一首首具有相通文化情感的汉诗就是新时代的“藁”，温暖着中日两国人民的心。我想中日两国携手抗击疫情的斗争精神，不正和《天平之藁》中鉴真和留学僧相同吗？

的确，中日两国间也曾有过摩擦。但即便如此中日两国并未疏远，而是更加紧密地相连在一起。中日两国不惧风雨一定能够攻克疫情的难关，然后一同构建中日和平友好的美好未来。希望新时代的青年能够继承“藁”的精神，将代表着中日友好交流的“藁”代代相传下去！

## 難孤独ではないグルメ



尚楚岳

北京師範大学

笹川杯作文コンクール 2020 年度二等賞

毎日、寝る前に、ドラマ『孤独のグルメ』の主人公である五郎さんと一緒に日本の街を散歩したり、おいしいものを探したりすることが私の「日常」になっています。様々な町の風景を見ていると、自分も日本にいるように感じます。

「社交が苦手な日本人は多い」と、大阪に住んでいる友だちが教えてくれたことがあります。「やから、友だちが少なくて寂しそうな人めっちゃおるで」と。五郎さんもそうなのかなと思ったこともありますが、このドラマを見れば見るほど、私の考えはだんだん変わってきました。

食事の前と後、日本人は常に感謝の気持ちを込めて「いただきます」と「ごちそう様でした」を、貴重な食材をくれた大自然へのお礼として言います。五郎さんも例外なく、毎回微笑みながら丁寧と言います。静かに一人で食事をする彼は、きっとほかの人より新鮮な食材とおいしい料理を玩味することができると思います。一日三食という毎日行われる小さな幸せは、五郎さんにとって、期待感のあふれる芸術的な幸せなのではないでしょうか。

孤独の人しか体験できないことがあります。

2019年、大阪大学に交換留学していた私は一人で瀬戸内海芸術祭を見に行きました。毎日、「孤独」の私はマイペースで観光したり、おいしいうどんを味わったりして、直島や女木島などの離島も含め、香川県の魅力を満喫しました。特に小豆島に行ったとき、私はほぼ一時間かけて、お気に入りの「静寂の部屋」という小さな博物館をたっぷり鑑賞することができました。「一人で旅行に行ったら、同行者の気持ちを考えなくてもいいから、のんびりできる」と、一人旅が好きな人は多いです。お一人様の旅や食事を体験したら、私もだんだんその「孤独」が好きになってきました。

人は誰でもある程度孤独の人だと思います。五郎さんが訪れた店で飲み会やパーティなどを行っている人たちも必ず寂しいときがあるでしょう。しかし、孤独であるからこそ、生活の中にある小さな幸せに気づき、より深くその幸せを感じることができず。孤独であるからこそ、静かに考えることができ、生活の哲学を悟ることができます。孤独の人は不幸だというわけではなく、自分なりの幸せがあるということだと思います。

一人焼肉、一人カラオケなどの「一人文化」は日本で流行っていると、日本で過ごした1年間の中で私は実感しました。しかし、孤独の人は寂しいというわけではないと、私は思います。孤独の人にとって、世界万物が自分の仲間であり、その人たちは世界と会話しているのです。

五郎さんは孤独のグルメなのでしょうか。いや、彼は決して孤独ではありません。

【译文】

## 不孤独的美食家

尚楚岳

北京师范大学

每天睡觉前，我都会和电视剧《孤独的美食家》的主人公五郎一起在日本的街头散步，寻找美食。看着各式各样的街景，仿佛自己也身在日本一般。

一位住在大阪的日本朋友告诉我，不擅长社交的日本人很多，因此朋友很少很寂寞的人在日本很常见。我曾想道，五郎是不是也是这样的一个人呢？但是渐渐地，我的想法发生了一些改变。饭前与饭后，日本人常会带着感恩之情，以“我开动了”和“我吃好了”这样的表达来向为人们提供宝贵食材的大自然表达感谢。五郎也并不例外，每次都会微笑着郑重地说出这两句话。静静地一个人享受着美食的他，一定能更好地品味食材的新鲜和料理的美味吧。一日三餐，这存在于每一天的“小确幸”，对于五郎来说，或许可以说是充满期待感，又饱具艺术感的幸福吧。有一些美好是只有“孤独”的人才能体验的。

2019年，在大阪大学交换留学的我一个人去参观了濑户内海艺术展。每天，“孤独”的我都按照自己的节奏旅游观光，品尝美味的乌冬，前往直岛和小豆岛等离岛，饱尝香川县的魅力。在小豆岛的时候，我几乎花了整整一个小时参观了一个我非常喜欢的小博物馆“寂静之屋”。有一些喜欢独自旅游的人认为，一人旅游不需要考虑同行者，按照自己的节奏悠闲地逛就好。而亲身经历过这样的一人游之后，我也渐渐地喜欢上了这种“孤独”。

我想，或许所有人，在一定程度上，都是孤独的。那些在五

郎身后举办酒会和派对的人也一定会有孤独的时刻。但是，正是因为有这些孤独的时刻，我们才有机会去静下来思考，去感悟生活的哲学。孤独的人并不是不幸的，而是身处在独属于自己的幸福之中。

在日本度过的这一年中，我发现像一人烧烤，一人卡拉 OK 这样的“一人文化”，在日本很是流行。而我认为，那些“孤独”的人并不是寂寞的。对于他们来说，世间万物都与自己为伍，那些人正是在和世界对话。

五郎真的是孤独的美食家吗？不，他其实并不孤独。

## 空気を読みながら、 自分らしく生きていく



倪笑依

北京外国語大学

笹川杯作文コンクール 2020 年度二等賞

「張り詰めた空気。気まずい空気。おいしい空気。暖かい空気。我々の暮らしや幸せは思った以上にその場の空気に左右されている。」確かに、仕事の上などで大切な能力として「空気が読める」ことがある。しかし、空気は単に吸って吐くものだけではなく、心で感じて読むものもあると思う。

空気を読みすぎるとかえって疲れ果ててしまう。ドラマ『風のお暇』の主人公の大島風さんはそんなタイプの人だ。職場の空気に敏感にアンテナを張っている大島さんは周囲の顔色を伺ってびくびくしながら毎日を送っている。天然パーマなのに、周りを不快にさせないために、日々日々大変な手間をかけてストレートにしようとしている。そのようにおどおどしていてストレスが溜まっている一方だった。ようやく限界が来て、過呼吸で入院した。だが、同僚も彼氏も、誰からも連絡をしてくれなかった。凹んで傷ついた彼女は思い切ってこれまで築いてきた人間関係を全部捨てて人生をリセットしてしまおうと思っていた。そこで都心を離れて自分探しの旅に出かけた。

実は、中国でも日本でも、大島さんのような「空気を読みすぎる」タイ

プの人がいっぱいいる。「空気を読む」はまさに中国語で「察言观色」という言葉にあっている。もともと優れた能力として認められていたのに、なぜ今では人を困らせることと考えられるようになったのか。それはやはり空気を読み「過ぎる」ということのせいだろうかと思う。相手に好かれているか嫌われているかと気になって先方に合わせてばかりいると、逆に自分を見失ってしまう。

さらに、全ての人に喜んでもらえるのは無理なのではないかと思う。人間は誰にでも欠点があるものなのだ。むしろひたすら人に合わせるのではなく、ありのままの自分でいればいい。この世の中は多種多様な人々がいるからこそ、成り立っているからだ。

そうは言っても、人間は孤島ではなく、誰かとつながっているのだ。マルクスによれば人間の持つ社会的諸関係は人間としての特徴の一つである。したがって、人と接するのは避けたくても避けられないものだともいえる。大島さんもいずれ再び職場に戻るに違いない。しかし、戻っても、彼女はもう一度自分を見失うのではない。確かに職場を離れて自分探しの旅は彼女にとって一周回って原点に戻ったような経験だ。でも、輪のように同じところに戻ったというよりもむしろ螺旋階段のように迷いながら上に登っているのである。実は、我々には人を喜ばせる義務がない。話し相手に丁重に接しながら、素直に表したいことを言うといいいのではないかと思う。その場の空気は相手と話し合いつつ、ともに作っていくものだからである。

したがって、必ずしも空気を読むことと自分らしさを保つこととは対立するわけではない。空気というのは吸って吐くものといい、感じて読むものといい、大切なのは、自分にあったやり方でバランスを取ることだ。



【译文】

## 在阅读空气中保持自我

倪笑依

北京外国语大学

“凝滞的空气、尴尬的空气、令人愉快的空气、让人温暖的空气。我们的生活和情绪超乎想象地被我们所处场合的气氛影响着。”的确，无论是工作还是其他方面，“阅读空气”、即察言观色，是一项重要的能力。但是，空气并不仅仅是用于呼吸的，更是用心去感受与阅读的。

但如果过度地阅读空气，反而会身心疲惫。《风平浪静的闲暇》这一部日剧中的主人公大岛凪就是这样的人。对工作单位里的气氛格外敏感的她，每天战战兢兢地看着别人的脸色工作生活着。明明是天然卷，却为了不让周围人感到不快，每天费尽心力把它烫直。就这样，她小心翼翼地生活着，压力也在一点一点积攒着，直到极限来临。那一天，她终于支撑不住，因为呼吸过度进了医院。但是，无论是同事还是男友，谁都没有关心她，连一个电话都没有。沮丧、受伤，她狠下心来决定清空之前所有的社交关系，她要重新活出自己。于是，她离开了东京，踏上了寻找自我的旅程。

其实，无论是中国还是日本，像凪一样过分在意他人目光的人有太多。日语中的“阅读空气”（空気を読む），其实就是汉语中的“察言观色”之意。它本是一项优秀的技能，为何如今反而变成了束缚人们的镣铐？究其因，还是“过分”阅读空气的过错吧。

“对方喜欢我吗？对方讨厌我吗？”就这样一直提心吊胆着、一味迎合着，到最后反而是失去了自我。

没有人能做到被所有人喜欢，因为没有人是完美无缺的。与

其一味迎合他人，倒不如活出自我。世界正因人的多姿而多彩。

但是，没有人是一座孤岛，每个人之间都有着丝丝缕缕的联系。人的本质是一切社会关系的总和——马克思的社会关系理论如是说。因此，我们无法避免与他人接触。風也一样，她终究要回到职场。但是这并不意味着她将回到原点，再一次失去自我。与其说她是绕了一圈回到曾经的地方，倒不如说是在迷茫中螺旋式地前进。其实，我们并没有义务去讨别人的欢心。在尊重他人的同时又能诚实地表达出自己，这两者并不矛盾。气氛，是由交流双方共同塑造的。

因此，“阅读空气”和“保持自我”未必是对立的。你可以把空气仅仅看作一吐一吸之际的流动，也可以看做需要感知和阅读的微妙；但最重要的，是寻找到最适合自己的方式，在两者间取得平衡。

## 無縁社会



詹鑫

大連外国語大学

笹川杯作文コンクール 2019 年度二等賞

ある日、「NHK スペシャル無縁社会—新たなつながりを求めて」というドキュメンタリーが、私の目を引いた。「無縁とはなんだろうか」と思いながら、そのドキュメンタリーを見ることにした。

「極当たり前の人生を送ってきた人達が、一人孤独に亡くなっていく姿を描いた—無縁社会」というナレーションと音楽で始まる。画面には主人公たちの姿が映る。両親に死なれ、一人ぼっちの吉澤さんは、NHK 放送センターに遺書を送った。同じマンションに住んでいた女性が誰にも気づかれずに亡くなった。自分も彼女のように独りで死んでいくではないかと考え、彼は自分が生きた証しとして遺書を綴ったのだ。番組が連絡を取り、相談に乗った後、吉澤さんは社会とのつながりを見つけようとする。彼はコミュニティの掃除をしたり、近くの小学校の子供達にプレゼントをあげたりする。そんなある日、吉澤さんの手に子供から感謝の手紙が届いた。「この手紙を見て、本当に一人じゃないなって思いましたね」と吉澤さんが言った…

ドキュメンタリーを見るうちに、私はなんだか暗い気持ちになった。死別、離婚やリストラなどで社会から切り離されるな

んで、あまりにも辛いと思う。家族や友達に支えられて生活している私は、無縁社会の中で生きていることを実感することはできなかった。しかし、だからといって自分と無縁社会は全く関係ないとも思えない。主人公たちもかつて様々な繋がりを持って生きていたが、意外なことに遭い、無縁になってしまったのだ。何かをきっかけにして誰でも無縁の状況に陥る可能性があると感じた。私は周りの人との絆をもっと大切にしたいと思った。

ドキュメンタリーの終わりに、「人と人が生きていくのは頼って頼られて、それでいいじゃないか」と、取材班の人が言った。抑圧的な映像の最後、この一言の優しさに感動し、何だか救われたと思った。確かに、無縁社会を有縁社会に戻すことは難しい。だが、NHKの取材班、各地のNPOの関係者のように、状況の改善のために努力している人も多くいる。その人たちの姿を見て、ほんの少し手を伸ばすことできっと何かを変えられるかもしれないので、私も自分で何かをしたいと思った。

今、日本では未婚率・離婚率の向上に加え、少子高齢化も進んで、無縁社会が拡大しつつある。内閣府によると、2017年、他人との絆がなく引きこもった人の人数は54万を超えたという。一方、2017年タオバオが発表した調査によると、中国では異郷で一人暮らしの若者が5000万人に達した。これから中国は無縁社会の道に踏み込むことになるのではないかと心配になる。我々はこの問題に関心なら、将来さらに孤立した無縁社会を作り出してしまふかもしれない。どうやって無縁社会に歯止めをかけるのか、中日のすべての人が考えなければならないことだと思う。

- 
- ・NHKスペシャル「無縁社会 新たなつながりを求めて」
  - ・「無縁社会」NHKスペシャル取材班「編著」

【译文】

## 无缘社会

詹鑫

大连外国语大学

某天，一部叫《NHK 特别节目——无缘社会，寻找新的羁绊》的纪录片吸引了我的注意。我不禁好奇什么是“无缘社会”，于是去看了这部纪录片。

“无缘社会描绘的就是，过着平凡生活的人们最终一个人走向死亡的社会现状。”伴随着旁白的声音，记录片开始了。出现在画面中的是父母双双离世，孑然一身的吉泽先生。不久前，住在同一公寓的一位女性在无人知晓的情况下离世了。担心自己会和那位女性一样孤独死去，吉泽先生给 NHK 广播中心寄了一封证明自己存在过的遗书。在和节目组取得联系，进行沟通后，吉泽先生决定开始寻找新的羁绊。以此为初衷，他开始打扫社区的环境，并给附近小学的孩子准备了礼物。某天，吉泽先生收到了来自孩子们的感谢信。他不禁感慨道“读了这些信之后，真心感到自己不再是独自一人了”……

观看纪录片的途中，不知怎的，我的心情也变得压抑起来。仅仅是因为亲友离世、离婚、裁员等原因就被迫脱离社会，怎么想都让人觉得太难受了。一直以来，在家人朋友的支持鼓励下生活的我，没有实际地体会过在“无缘社会”中生存的感觉。但是，这并不意味着我与无缘社会毫无关系。因为纪录片中的主人公们也曾有着多样的羁绊，但他们却遭遇意外不得不落到与社会脱节的境地。因此我强烈地意识到无论是谁都有可能落入无缘的境地，我也开始更加珍惜与周围人的羁绊。

在片尾，取材的工作人员说了这样的话，“人和人之间就是相互依赖而得以生存的，这难道还不够吗。”在压抑的视频最后，听到这样温暖的话，我瞬间觉得被拯救了。的确，很难从现在的无缘社会回到过去的“有缘社会”。但，仍有着许多像取材的工作人员、各地公益组织的工作人员那样的人们，为改善现状而不断努力着。看到他们努力的身影，我由衷觉得只要伸出援助之手，一定能改变些什么，自己也开始想为此去做些什么。

现在的日本，少子老龄化不断加剧、未婚率和离婚率日渐上升，无缘社会的现象在逐步扩大。根据内阁府的调查，截止到2017年，日本国内脱离社会，蜗居家中的人超过52万。与此同时，淘宝在2017年发布调查称，在中国独居他乡的年轻人人数达到5000万人。我不禁对将来中国是否也会同日本一样踏入无缘社会感到担忧。如果我们大家都对这个问题毫不关心的话，可能将来会出现一个更加被孤立的无缘社会。如何阻止社会无缘化的进程，是中日所有人不得不思考的问题。

## 「笹川杯日本を知る 日本との出会い—おいしい話から心へ



閻芋婧

河北大学

笹川杯作文コンクール 2019 年度二等賞

「ねね、いつ日本に行く？『孤独のグルメ』を見て日本料理に心を奪われた！」と大学に入ったばかりの頃に友人に誘われた。その頃、私は日本のことをあまり知らなかったし、日本文化を知る機会もなかった。いきなり聞かれて、言葉そのものを勉強するだけでなく、日本を知る必要もあるのではないかと思った。そこである夜、日本のことをほとんど知らない私は、好奇心から『孤独のグルメ』を見ることにした。一人で働く主人公の井之頭五郎が、様々な場所で商売をし、仕事の合間にその場所の美味しいものを食べていく物語だ。ドラマの中では、五郎はいつも一人で食事をするが、そのスタイルがとても新鮮だ。彼が夢中になって、食べ物を味わい尽くす姿は一人だからこそ伝わってくる、独特の魅力があるのだと思う。

料理屋を捜す五郎の歩みに、実際の日本の街並みが見えてくる。ぎっしり立ち並んでいる店や、可愛らしい字の書かれた看板、慌ただしい通行人や、きれいに整備された道など。日本には中華料理店がたくさんあるのを見て、楽しい気持ちがより強

くなった。これは飲食文化の交流ではないでしょうか。また、五郎は毎回違った分野のお客と商売をするので、そのやり取りを通じて、日本社会の多彩な姿を垣間見ることができる。画面に映し出される日本の風景やドラマのシーンが、少しずつ頭の中で日本のイメージを描いていく。今まで持っていた日本に対する想像とはまったく違ったものになった。

ある日本人留学生との経験を思い出した。これまで、私の印象では日本人はとてもシリアスだと思っていたから、初対面ではとても緊張した。しかし、留学生のお姉さんはとても優しく微笑んで、私に話しかけてくれた。そのうち、私を友達のようにして昼食へ引っ張って行った。彼女と食事をするとき、「いただきます」を言うのかな、などと注意したことも、今考えると面白い。

私たちはまだ何事も知らないうちから、何かステレオタイプのイメージを持っているようだ。しかし、すこし分かってくると、その印象は現実的な世界に姿を変えていく。『孤独のグルメ』は私が日本を知るきっかけになった。ドラマの中のすべての話は日本の印象を生き生きとしたものにしてきている。

中日戦争という不幸な歴史があったため、本能的に相手国の人に悪い印象を持ったり、交流の機会が減ったことは否定できない。しかし今では、インターネットや観光などを通じて、情報や人が海を越え、お互いの国を体験できる機会も増え、相手を理解することに情熱を傾けている人が増えてきていることも事実だ。そして、そのことを私は日本語専攻の学生として非常に嬉しく思う。中国と日本が本当に素晴らしい友好関係を築けるよう、心から願っている。



【译文】

## 遇见日本——从味蕾跳动到荡漾心间

闫芊婧  
河北大学

“咱们什么时候去日本呀？看了《孤独的美食家》，我真的要被馋哭了！”，在我刚上大学的时候，一位朋友就曾这样问道。但那个时候，我既不太了解日本，也没有什么接触日本文化的机会。朋友这不经意的一问，突然间深深触动了我的内心，我不禁开始反思：难道自己就只是单纯地学习语言吗？难道不应该去了解一下日本吗？

于是一天晚上，在好奇心的驱使下，身为“日本小白”的我决定一探究竟，打开了这部《孤独的美食家》。该剧主要讲述了主人公井之头五郎独自辗转于各地做生意，在工作之余品尝当地各色美食的故事。（因为工作的关系），五郎一个人吃饭的形式让我感到很新鲜。正是由于他那样全神贯注地品尝美食，我才领略到了独自享受的魅力。

跟随着五郎探寻美食的脚步，我看到了日本独有的特色街景：鳞次栉比的店铺、写有可爱字体的立牌、步履匆匆的行人、洁净得让人赞叹的街道等。更让人欣喜的是，我还看到了许多开在日本的中国料理店，这不正是中日饮食文化交流的体现吗！除此之外，因为五郎每次都和不同工作领域的人打交道，他们之间的交往方式也让我有幸窥得了日本社会的千姿百态。那方寸屏幕之上出现的所有场景，都在一点一滴地建构着我脑海中的日本印象。而正是它们，推翻了从前的我对日本的凭空想象。

这不禁又让我想起和日本留学生的一次经历。在遇到她之前，

我印象中的日本人都是非常严肃的，所以初次见面时，我感到很紧张。但是这位小姐姐笑容温柔，主动和我搭话，甚至如同朋友般邀请我一起去吃午饭。那天吃饭时，我还留心了她有没有说“いただきます”之类的话，现在想想也觉得非常有趣。

在我们尚未了解某一事或物时，脑海中似乎就有了某些刻板印象。（而因某些原因）渐渐接触之后，这种印象才能被替换成真实情况。《孤独的美食家》于我而言便是了解日本的契机，这部剧一切的一切，都促使着我的“日本印象”鲜活起来。

我们不可否认因为战争，有些人本能地对立场与自己相反的国家持有坏印象，交流的机会也随之减少。但是如今通过网络、旅游等方式，中日两国有越来越多的人怀着跨越海洋的热情，去加强两国之间的交流，去亲身体会更加真实的对方。而我作为一名日语专业的学生，在颇感欣喜的同时，更是发自内心地祝愿中日两国之间的友谊万古长青。

## さようなら、偏見



張佳穎

西安交通大学

笹川杯作文コンクール 2020 年度二等賞

——「お久しぶりです、武漢」についての感想文

『武漢のありのままの姿を世界に伝えたい。一方で、武漢に行くのが怖い。そんな思いで始まったこの作品。撮影を終えた今、感想を一言でいうと、「もう一度武漢に遊びに行きたい!』  
2020年6月29日、私は「お久しぶりです、武漢」を見た。

「お久しぶりです、武漢」は南京在住の日本人監督の竹内亮が撮影して、武漢の人々が新型コロナウイルスとの闘いとその後の武漢を描くドキュメンタリーである。

「このドキュメンタリーの最大の目的は武漢の現状を全世界に紹介するのである。というわけで、世界の人々が知りたいこと、例えば、華南海鮮市場や雷神山病院、最前線で奮闘した医療従事者や専門病院を建設した人などもそのままドキュメンタリーに描くのだ。」

と、竹内さんはインタビューでそう言った。

国内では新型コロナウイルスとの闘いに関するドキュメンタリーも少くないが、外国人が撮影したものを見たのは、私にとって初めてのことだった。

このドキュメンタリーを見た後、私は武漢人の犠牲や痛みを心に痛み、彼らの勇敢さや強靭さに感動した。でも一番の感想は、やはり監督の竹内さんへの尊敬の念だ。

なぜなら、彼は敢然と偏見を捨てたのだ。

世の中で偏見はどこにでもある。

偏見が起こることは中国国内とて例外ではない。コロナの新規感染者がゼロでも、町の封鎖が解除されても、武漢は「コロナウイルスの街」なのだ。

「お客さんは武漢の品物だと知ったら、すぐ注文をキャンセルしてしまうんだよ。」

と、この前に雷神山病院の建設に参加したある労働者はドキュメンタリーで竹内さんに対し、苦笑いをしながら仕方なさそうに言った。

海外において、迅速に感染拡大を抑制しても、難しい局面を乗り越えても、中国は「新型コロナウイルスの発生源だ」というレッテルを貼られた。多くの外国人は中国人を「ハイリスク・グループ」にし、公然と中国人を差別している。更に、ある国は「新型コロナウイルス」を「チャイナウイルス」と呼び、公に中国への偏見を示している。

世の中で偏見はどこにでもあるという前提の下で、異邦人としての竹内さんは積極的に偏見を捨て、未知への恐怖を克服して武漢に行った。それから、現地調査を行って現状を知り、ドキュメンタリー映画を作って客観的な情報を全世界に伝えた。これは尊敬すべきことではないだろうか。

私は竹内さんを尊敬する。そして、竹内さんのような人になりたいとも思った。

私は将来、竹内さんのように偏見を捨て、積極的に現場に行き、現物を手に取り、現実を自分の目で見て確かめたい。そして中日両国のパイプ役になりたい。実際の日本の社会を自分の

目で見、耳で聞き、心で理解し、中日両国の国民がお互いに対する誤解や偏見を失くし、真の友好関係が築けるように。

---

（竹内亮「お久しぶりです、武漢」）

【译文】

## 后会无期，偏见 —观《好久不见，武汉》有感

张佳颖  
西安交通大学

“我想让全世界的人看到武汉最真实的现状，但是同时，又对武汉之行感到害怕。这部作品就是在这样矛盾的心情下开始拍摄的。但是拍摄结束后，用一句话概括现在的感想的话就是：‘我还想再去武汉玩！’”

2020年6月30日，我观看了纪录片——《好久不见，武汉》。

《好久不见，武汉》是一部由现居南京的日本导演竹内亮拍摄的展现武汉抗疫过程以及疫后恢复情况的纪录片。

竹内亮导演坦言，制作这部纪录片最大的目的是把武汉的现状介绍给全世界。因此，外国人想要了解的华南海鲜市场、雷神山医院、战斗在疫情最前线的医护人员及建设方舱医院的工人们等都会原原本本地出现在片中。

虽然国内关于国人抗疫的纪录片也有不少，但我还是头一次看到由外国人拍摄的中国抗疫纪录片。

看完这部纪录片后，我心痛于武汉人的牺牲与创伤，为武汉人的勇敢与坚韧而动容。但说起最大的感想，则是对导演竹内亮的崇敬。

因为他勇于抛弃偏见。

在现实生活中，偏见无处不在。

在国内，武汉好多天实现零新增了，也解封了，武汉却依旧被视为“新冠之城”。

“人家一听是武汉的货物，就不要了。”一位曾经参与过雷神山医院建设的工人在面对竹内导演的采访时无奈苦笑着，这样透露道。

在国外，尽管中国有效地把疫情控制住了，并挺过了最艰难的时期，中国却依旧被贴上了“新冠病毒发源地”的标签。很多外国人的将中国人视为“病毒高危人群”，并公然差别对待中国人。更甚之，某些国家竟公开地把“新冠病毒”叫做“中国病毒”，公然地表达了对中国的偏见。

在偏见无所不在的情况之下，身为一个异乡人，竹内亮导演却能主动地抛开偏见，克服对未知事物的恐惧，深入武汉通过实地的采访理解现状，并通过纪录片的形式将客观的情况传递给全世界。这难道不是一件值得崇敬的事情吗？

我钦佩竹内导演，更决定要做一个像他一样的人。

从今往后，我要像竹内导演一样抛弃偏见，积极地到现场进行实际调查，确认实际情况，并在此基础之上成为中日两国沟通交流的牵线人——用眼睛去看，用耳朵去听，用心去感受，深入到实际的日本社会之中，消除中日两国人民对彼此的误解与偏见，为构筑中日两国的友好关系而不断努力。

## 自分の価値というのは



李林億

北京語言大学

笹川杯作文コンクール 2020 年度二等賞

初めて『銀河鉄道の夜』を読んだのは、確か小学生の頃だった。父は行方不明、母は病気に伏すジョバンニは毎日アルバイトで忙しく、学校では常に級友にからかわれている。だが、幼馴染のカムパネルラに限ってはジョバンニをバカにせず、時には彼を家に招くこともあった。しかしその唯一の友カムパネルラも、意地悪好きな同級生を救うために彼から離れて行ってしまう。そのようなジョバンニを私は気の毒に思い、そして、彼に幼かった自分の姿を重ねた。

それはまだ小学生の時、友達が一人も出来ず、仲良くしてる同級生たちを教室の隅から眺め、一人寂しがっている私だった。あの時の私は、多分カムパネルラのことを少し恨んでいたのかもしれない。ジョバンニの唯一の友であるにもかかわらず、なぜ自分の命をかけてまでジョバンニをいじめた子を助けるのだろうか、当時の私には理解できなかった。

大学生になった今、再びこの本を手にとって読むと、異なる視点でカムパネルラの行動を捉えることができるようになった。本当に大事なものは、他人が私に何を与えるかではなく、私が他人に



何を与えられるかということだ。宮沢賢治さんが『銀河鉄道の夜』を通して伝えたかったのは、多分こういうことだろう。

小学生の私は人との交流が苦手で、人と会話するのを避けてばかりいた。なのに、誰かが向こうから話しかけてくれるのを待っていた。ところが、中学校に入学して、学級委員長を務めてからというもの、状況が一変した。放課後に残ってみんなと教室を掃除したり、クラスで計画を立ててイベントを行ったりしたことで、自分がクラスの一員だということを実際に感じられた。運動会で汗みずくになりながら、声を枯らしてクラスの選手達に大きな声援を送ったのも、実に楽しいことだと思えた。そのような一つひとつの小さなことを積み重ねていくうちに、自分の存在価値を実感することができ、新たな世界が目の前に開けた。

現代社会において、人々は人生に迷って方向を見失ってしまう時があるだろう。それは、心の中に帰属感がないからかもしれない。小学生の私と同じで、誰かが自分に手を貸してくれるのを待っているかのようだ。しかし、単に一方的に何かをしてもらうだけでは、自分がグループの一員として存在しているという帰属感は得られないのだ。他者に働きかけ、自ら主体的に他人に貢献してこそ、自分と他人との間に繋がりができ、心身を充実したものにすることができるのではないかと私は思う。

物語の最後には、友人の死を知ったジョバンニが一人で家へ走っていく。彼はカムパネルラのことをどう思っているのか。彼の選択を理解し、物語で先に言った「本当の幸い」を探そうとするのだろうか。私もジョバンニと共に、自分自身の価値を見出し、誰かの役に立ちたいと思う。

【译文】

## 活着的价值

李林亿

北京语言大学

我第一次读《银河铁道之夜》，是在读小学的时候。主角乔邦尼的父亲行踪不明，母亲因病卧床不起。年幼的乔邦尼每天都奔波忙碌于打工之中，在学校也总是受到同学们的欺凌。唯独儿时的玩伴康贝瑞拉从不捉弄他，有时甚至把他叫到家中一同玩耍。然而，就连唯一的朋友康贝瑞拉，最后也为了救助班上一个爱捣蛋的同学，永远地离他而去了。我在心中不禁默默同情乔邦尼的同时，也透过他窥看到了儿时自己的背影。

小学的时候，我在班上没有朋友，只能一个人孤零零坐在教室的角落里，偷偷望着那些嬉笑打闹的同学。现在想来，当时的我可能多少是有些埋怨康贝瑞拉的。身为乔邦尼唯一的朋友，为什么为了救一个欺压过乔邦尼的坏蛋，你连自己的性命都可以舍弃？当时的我实在是无法理解这种行为。

如今上了大学，再重温这本书，我竟突然领会到了康贝瑞拉当时的心境。对一个人而言真正重要的，不是我能从他人那里得到什么，而是我究竟能给予他人什么。宫泽贤治先生通过这本书想传达的，应该是这样的观点吧。

小学的时候我不大擅长面对别人，一直在不断逃避和他人的交流，心里的某个地方却又隐隐期待着有某个人能主动走向自己。再后来，我进了初中当选了班委，我小小的世界发生了天翻地覆的变化。放学后我开始经常留下来和大家一同打扫教室，有时也会和其他班委一起制定计划、举办各种趣味活动，随着越来越频

繁投入参与这些集体活动，我仿佛也真正融入了这个集体，成为了这个班级中的一份子。在运动会上为班级选手呐喊助威，拼尽全力直到汗水湿透了衬衫，声带撕裂一般颤抖，似乎也不再像以前那样令人痛苦了。在这样的自我贡献感的点滴积累之下，我才终于由心感受到了自己存在的意义与价值。于是，一个新的世界，在我的眼前绽放了。

奔波于现代社会的人们，多多少少都有过那么一段茫然若失颠沛流离的时期。论其原因，或许就是因为在我们心中总缺乏那么一种说不出的归属感。就好似小学时候的我，一味地在原地等待着，相信总有某个人会向自己伸出手来。然而，仅仅单方面地接受别人的好意，是无法真正融入集体，体会到身处团队中的归属感的。只有自己主动地、自发地为他人作出贡献，我们和他人之间的结才会联结系紧，身心才能真正意义上得到充实。

故事的最后，得知了友人死讯的乔邦尼孤身一人跑向了家中。他会怎么看待康贝瑞拉呢？他会理解他的选择，继续探寻两人提到的“真正的幸福”吗？我也希望能与乔邦尼一同，找寻自己存在的意义，为世界上的某个人献出自己的一份光一份热。

编辑委员会

主任

陈文戈 高桥正征 李新碗

编委

王汉平 陈进 顾文君 孙立成

宫内孝子 阿罗美奈子 汤莹莹 刘珊

主编

中国外文局亚太传播中心（人民中国杂志社）

日本科学协会

上海交通大学

统筹

孙立成

美编设计

孙立成 孙研

鸣谢

特别赞助：日本财团

赞助：全日空航空公司

中国教育图书进出口有限公司

上海外语教育出版社

后援：日本国驻华大使馆

中国日本友好协会

中央广播电视总局CRI日语部

全国日语教学研究会

人民网

中国网

国际赠书中心

协力：上海初盟教育科技有限公司

中日之窗

蔚蓝第六时限日语教育网

北京和風薰文化伝媒有限公司